

平成30年度 第6回府中市男女共同参画推進協議会 次第

日 時：平成30年11月28日（水）

午前10時

場 所：府中市役所 北庁舎3階

第4会議室

1 審議事項

(1) 府中市男女共同参画計画推進状況評価報告・第三者評価について

(2) 第6次府中市男女共同参画計画について

2 その他

【配布資料】

資料1 府中市男女共同参画計画推進状況評価重点項目各委員評価

資料2 府中市男女共同参画に関する意識調査報告書（案）

資料3 第6次府中市男女共同参画計画新旧体系図（案）

参考資料 「女性活躍推進計画」の策定について

府中市男女共同参画計画推進状況評価重点項目各委員評価

※敬称略

【評価基準】 ※→は評価点数換算	
A…施策は非常に良好に進展している	→ 5
B…施策は、良好に進展している	→ 4
C…現状維持	→ 3
D…施策がやや後退している	→ 2
E…後退している	→ 1

I あらゆる分野における男女共同参画											
1	社会・地域における男女共同参画		4	4	3	4	4	4	4	4	3
	(1) 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大		各委員による評価								
	2 すべての審議会等に女性委員の登用	政策課	B	B	C	B	B	B	B	B	C
各委員 の意見	<p>女性を登用する審議会の数が着実に増えていると思いますので、この評価としました。今後は、女性の登用をさらに促進するため、附属機関等の全委員に対する女性委員の割合を高めることを目標にしていくべきではないかと思ひます。</p> <p>昨年度からさらに女性比率を高め、目標の93%を上回った。30年度に掲げる目標98%も高く、関係者の意気込みを感じる。対策がもう少し具体的に書いているとなお良い。</p> <p>28年度と29年度では附属機関の分母が異なり、女性登用割合が6.2%上昇も評価しにくい。6.2%上昇要因がわからない。パーセンテージを上げるための強引な女性委員の登用とならないように気をつけてほしい。</p> <p>年々増加傾向にあり一定の評価はできる。ただ、登用ありきが先行して、委員会そのものの機能に支障をきたすことのないよう留意する必要がある。</p> <p>女性委員がいない審議会をなくすことへの積極性を感じました。今後に期待いたします。</p> <p>確実に増加している事と、今後の目標が明確なためB評価とした。</p> <p>女性委員を登用した審議会の割合が6.2%増加した事は、成果が出ていると思う。事業項目に「すべての審議会等に～」とあるので目標としては98%以上ではなく100%として欲しい。</p> <p>目標値を上回る実績を残されているため、この評価とさせていただきます。女性委員の割合が1-2割以下の機関等については、引き続きの取組活動の強化をお願いいたします。</p> <p>目標93%に対して96%の達成となったことは評価できる。政策課が女性比率を高めるためにどのような取り組みをしたのか、登用していただけなかった2機関についてはその理由を詳しく知りたい。次年度の目標は98%といわず、100%を目指していただきたい。</p> <p>良い結果につながる気運が見えてきているものの、審議会が発信場所につき、違った切り口を探れないだろうか。</p>										
	判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	<p>積極的な目標を掲げ、女性を登用する審議会の数が着実に増えているためこの評価としました。目標は100%とするとなお良いと思ひます。今後は、貴課が女性比率を高めるためにどのような対策・取り組みをしたのか、女性を登用していない2機関（府中市都市計画審議会部会、府中市建築紛争調停委員会）の理由について、詳しく記入してください。引き続き、女性委員の登用が100%となるよう努力してください。</p> <p>その他にも、この項目と関連する審議会の女性委員割合について、平成29年度の実績が32%とありますが、目標の40%達成に向けて積極的に取り組んでください。</p>									

評価平均	3.8
評価	B

(4) 安全・防災対策の推進		各委員による評価										評価平均	
		4	2	4	3	3	3	4	3	3	4	3.3	
18	男女双方の視点を取り入れた防災対策の推進	防災危機管理課	B	D	B	C	C	C	B	C	C	B	3.3
各委員 の意見	女性の参加率が高まっていると思いますので、この評価としました。 女性視点の取組が進展していると思いますが、さらに女性参加率を目標値に近づけるとともに、良いマニュアルになるよう改善して いてもらいたいです。												
	目標の40%に届かなかったなのでこの評価とした。女性の参加率を促したとあるが、具体的にどのような対策をとったのか具体的に記 述してほしい。												
	29年度の計画目標に基づき行動し、女性視点を取り入れた内容である授乳室設置を実施したことを評価し、この評価にしました。今 後も各避難所運営連絡会における女性の参加率が40%となり更なる改善へ結びつくよう目指して下さい。												
	意見なし												
	「女性視点」というのが強調されているのを強く感じました。												
	女性の参加率は上がっているが、内容にあまり変化を感じないため。												
	避難所運営連絡会の女性参加を促した成果は出ていると思う。女性視点により授乳室が設置されたことも良いと思う。防災訓練の実 施結果も回数や箇所数等の数値が出るとさらに分かりやすくなると思う。												
	各避難所運営連絡会等への参加率は29%で、目標値に対する達成率は72%とのことですが、授乳室を設置するなど女性視点の取組みの 実施は活動の成果と思います。引き続き、女性の参加率を高め、男女双方の視点を取り入れた防災対策を推進するための検討・工夫を お願いいたします。												
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	女性の参加率40%の目標に対し、実績は29%と未達成。しかしながら、女性視点の内容が検討されたことにより、実際に授乳室が設置 されたことは評価できる。女性の参加率を上げるためにどのような取り組みをしたのか？次年度の目標達成に向けてどのような取り 組みが有効だったのかを検討していただきたい。												
	自然災害が多くおきている中、さらなる対応策が期待される場所である。												
女性視点により授乳室が設置されたことは評価できますが、貴課の設定する40%の目標は達成できていないため、この評価としま した。 今後は、女性の参加率を上げるためにどのような取り組みをしたのか、防災訓練の実施回数や箇所数、次年度の目標達成に向けて どのような取り組みが有効だったのかを記入してください。 自然災害が多く起きている中、男女双方の視点を取り入れた防災対策は急務だと思いますので、引き続き、検討・工夫をお願い いたします。													

2 教育の場における男女共同参画
 (1) 学校における男女平等教育の推進

		4	3	3	4	3	3	3	3	3	3
		各委員による評価									
32 発達段階に応じた性教育等の実施	指導室	B	C	C	B	C	C	C	C	C	C

評価平均	3.2
評価	C

各委員 の意見	計画どおり事業をを実施しているということで、この評価としました。学習指導要領に基づき指導していくことは、大変重要なことだと思いましたが、生徒の理解度の把握も必要だと感じました。
	「決められたことを着実に実施し目的を果たし、特に課題はない」と理解し現状維持とした。評価の内容、取組に対する今後の課題には、それぞれ自己評価、今後の課題（ないのであればなしと）を記述してほしい。
	実績がわからない。理解度アンケート（生徒に）や指導を行う先生にどう工夫して授業を行っているか等、ヒアリングして成功例を他校へ広める等、学校に任せっきりにならないよう取り組むべきだと思います。
	取組み施策に具体制が盛り込まれており評価出来る。
	内容はともかく、しっかりと回答されている姿勢を感じました。発達段階に見合った計画的、継続的な指導に期待します。
	指導の取組は評価できるが、指導結果がまだ評価できる段階ではないと思ったため。
	指導内容は、わかり易く説明されている。この内容を学校への伝え方が書面なのか、講習会等を通してなのかその辺も知りたい。
	学習指導要領における性に関する主な内容等が詳しく記載されており、わかりやすく、状況を示していただいていると思います。引き続き、継続実施に努めていただくとともに、実態把握や年度計画および目標設定等の検討をお願いします。
	時代、発達段階に応じた性教育を学習の中に取り入れるために、指導課が実際にどんな取り組みをしたのかが不明確。指導課が各学校に出向いて教育したのか、各学校の代表者に指導をしたのか？各学校に指導したなら、何校に対して？何回？何人？等の数値による目標設定、実績管理が可能であるはず。次年度は体育・保健体育科、道徳、特別活動を通じて、性にかかわる内容について計画的・継続的な指導を実施する、ということであるが、同様に数値目標を入れていただきたい。「計画的、継続的」な指導というのが不明確。
SNSなど情報化社会での影響が大きくなる中、後手にならないよう早急な対策を考えるべきである。	

判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	<p>計画どおり事業を実施しているようですが、実績、今後の課題、目標が不明瞭なため、この評価としました。今後も学校に任せきりにならないよう取り組んでください。</p> <p>今後は、貴課が各学校に出向いて指導したのか、書面で伝えたのか、誰に指導したのか、市内の何校に何回実施したのか、そして、計画及び目標の「計画的・継続的な指導の実施」について具体的に記入してください。</p> <p>SNS等が普及し、情報化社会での影響が大きくなる中、後手にならないよう発達段階に応じた対策をお願いいたします。</p>
----------------------------------	--

Ⅱ ワーク・ライフ・バランスの推進										
1 仕事と生活の両立支援推進										
(1) 職場におけるワーク・ライフ・バランスの推進										
3 4 4 4 4 4 4 4 4 4										
各委員による評価										
41 ノー残業デーの徹底	職員課	C	B	B	B	B	B	B	B	B
各委員 の意見	一人当たりの超過勤務が減っていることは評価できますが、事業目標であるノー残業デーにおける定時退庁の徹底については、平成28年度の定時退庁率が示されておらず、取組が進展しているのかよくわからないのでこの評価としました。今後も、ワークライフバランスを推進するために、具体的な取組を実施することが必要だと思えます。									
	着実に進んでいるのでBとした。 数値目標に定時退庁率や超過勤務時間数などの具体的な数値を掲げるとなお良い。									
	超過勤務時間数が前年度比で3%減少していることを評価して、この評価にしました。無理なコストカットにならないように注意して更なる取組をお願いします。									
	「朝型勤務形態」を導入するなど努力のあとが伺える。今後とも全庁ベースで意識の向上を図っていただきたい。									
	前年度比約3.0%減は素晴らしいと思います。多様な勤務形態の導入により、個々が生活スタイルに合わせた勤務ができて好循環になることに大いに期待します。									
	意見なし。									
	ノー残業デーのみにとどまらず、様々な状況で働く、それぞれの人に合った「時差勤務」の実施はとても良いと思う。									
	朝型勤務形態の実施、ノー残業デーの周知・徹底を着実に実行されており、超過勤務時間数の減少はこれまでの継続的な活動の成果だと思います。また、提示退庁率の算出や「朝型勤務」の発展型として「時差勤務」を計画に掲げられているなど、積極的な取組がされているものと思います。引き続き、啓発活動に努めていただくようお願いいたします。									
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	朝方勤務形態の実施等により、超過勤務時間数が減少したことは評価できる。しかしながら、次年度に対しては、数値目標を設定していただきたい。(超過時間数、定時退庁率、等)									
	いろいろな視点での取り組み方法の検討が求められる。									
超過勤務時間数が前年度比で3%削減を達成していることや、平成30年度「時差勤務」を実施する等、積極的な取り組みを行っているため、この評価としました。今後は、目標について、定時退庁率や超過勤務時間の具体的な数値を掲げることも必要だと思えます。引き続き、個々の生活スタイルに合わせた勤務ができるよう、様々な視点での検討を期待します。										

評価平均	3.9
評価	B

2 子育て支援

(3) 地域での子育て支援

		4	3	4	4	3	3	3	3	4	3
		各委員による評価									
54 放課後子ども教室の実施	児童青少年課	B	C	B	B	C	C	C	C	B	C

評価平均	3.4
評価	B

各委員 の意見	<p>児童のニーズに合った見直しを行い、体制の強化により総参加者数が伸びたということなので、この評価としました。今後も学童クラブと連携した施設運営を行い、支援の充実を目指してほしいと思います。</p> <p>取組、評価、今後の課題が昨年とほぼ同様なので進展しているとは言えない。数値目標の22校はすでに達成している数値。別の数値目標を掲げてほしい。たとえば、連携して運営する施設を〇カ所確保するなど。</p> <p>改善のための取組を行い、一定の成果を出しているこの評価としました。</p> <p>昨年に引き続き、全校において一体的に連携しながら実施しており評価したい。</p> <p>市立小学校22校全校で「放課後子ども教室」が実施できていることや開催日や総参加人数が増えていることから努力が感じられます。また、学童クラブとの連携におけるメリットはどのような点でしょうか。条件が合わないため利用できない児童のニーズとは何でしょうか。児童に寄り添った対応の温かさを感じます。</p> <p>意見なし。</p> <p>多様なニーズに対応できた事により開催日数を増やし、その結果、総参加人数も増えている事は良いと思う。課題にもあがっていた学童との連携ができる施設の確保もどうなっているか報告が欲しい。</p> <p>総参加者数の増加は、学校休業日における開催日数の増加など着実に計画を実行されるなどの活動の成果と思います。推移がわかるよう、年度ごとの参加者数や開催日数等の記載検討をお願いします。引続き、継続実施いただくとともに、拡大支援に努めていただくよう、お願いいたします。</p> <p>放課後子供教室の開催日数、総参加者数が増加したことは評価できる。30年度の目標が、29年度の実績と比較して何が違うのか理解できない。（「22校全ての小学校において、放課後子ども教室と学童クラブが合同でお話し会や避難訓練を行うなど一体的または連携して事業を行う。」と30年度目標にあるが、これは29年度に実施できているはず。何をどこまでできているのか、29年度は何を積み残して、30年度は何をやらなくてはいけないのかが不明確であるので、29年度実績、30年度計画に対して、「何をどこまで」と言う点を明確にしていきたい。</p> <p>子育て環境が大きく変化している中、社会全体での子育て支援が実現できるよう世代間交流を活用して欲しい。人と人とのつながりを重視すべきではないか。</p>
------------	--

判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	<p>学校休業日の開催日数を増やし、参加者が増加していることが評価できるためこの評価としました。記入内容について「取組と実績」「評価の内容」「取組に対する今後の課題」が昨年度とほぼ同様のため、今後は具体的に記入してください。</p> <p>今後も一体的に連携することや、人と人とのつながりを重視するために社会全体での子育て支援が実現できるよう世代間交流を活用してください。</p>
----------------------------------	--

Ⅲ 人権が尊重される社会の形成

1 配偶者等からの暴力の防止

4 4 3 4 3 3 4 4 3 4

(2) 被害者に対する支援の充実

64	相談体制の充実	地域コミュニティ課	各委員による評価								評価平均
			B	B	C	B	C	C	B	B	C

各委員 の意見	相談窓口の周知を図るため、 <u>いろいろな工夫を凝らしながら事業を展開している</u> ので、この評価としました。今後も、一人でも多くの若者が被害者とならないよう、DVに対する正確な認識を持ってもらうための啓発を行うとともに、関係機関と連携してより効果のある窓口体制を確保してもらうことを期待します。
	<u>新しい取組（リーフレットの作成・配布やほっとカフェの計画など）を重ねている</u> ことを評価しBとした。相談カードの女性トイレの配架は効果があるのか、相談に来た人たちは何を見て相談窓口を知ったかなどのアンケートを取っているか、その結果はどうかなどさらに踏み込んだ対応を期待する。
	28年度で相談カードの設置場所等を検討するとあるが、 <u>29年度新たな設置場所や改善点がない</u> ため、この評価にしました。
	着実に施策を講じており評価できる。
	周知活動への努力は今後とも続けていただくと共に <u>自ら声を出せず苦しんでいる人の掘り起こしをどうするかを考える必要性を感じます。</u>
	周知は向上しているが、 <u>当事者が相談できるか（しやすいか）を向上させないと評価は上がらない</u> と思う。
	今までどおりの女性問題相談の周知に加え、 <u>新しくリーフレットを作成し配布した事は良い</u> と思う。また計画に「ほっとカフェ」の開始など、より気軽に相談できる環境づくりも評価できると思う。
	リーフレットの作成・配布、女性問題相談カードを通しての周知活動の継続実施、「ほっとカフェ」の計画など、 <u>活動推進に向けた活発な取組みをされている</u> と思います。引き続き、啓発活動、支援の拡充をお願いいたします。
	29年度はリーフレットを作成したということだが、目標である、 <u>「市民への効果的な周知」</u> ができたかどうかは疑問なので、Cとした。 「デートDVのリーフレット公共施設全23施設へ配布し、意識啓発活動を行った。」とのことだが、デートDVの啓蒙活動であるなら、むしろ学校での啓蒙を強化したほうが良いのではないかと思います。もしくは、若い女性に見てもらうためにはどこで啓蒙活動をすればいいのか？という議論はなされたのか？（もしもなされた上でのことであれば、私の認識不足なのかもしれませんが）30年度は効果的な周知をお願いします。
「ほっとカフェ」の設置は新しい試みで良好。多角的な試行錯誤は期待できる場所である。	

判定理由及び改善策の提言等(案)	いろいろな工夫を凝らしながら、新たな事業を展開しているためこの評価としました。引き続き、学校や相談相手になりやすい家族・友人への意識啓発活動、相談カードの設置場所の追加、潜在的なニーズの掘り起こし、相談しやすい環境づくりに努めてください。また、センター名称が変更されますので、これを機に相談事業の周知にも力を入れてください。
------------------	--

評価平均	3.6
評価	B

2 人権の尊重

3 2 3 3 2 3 3 2 2 3

(3) セクシュアルハラスメント防止の推進

		各委員による評価										評価平均	
79②	職員・教職員のための相談窓口の充実	指導室	C	D	C	C	D	C	C	D	D	C	2.6
		各委員の意見											
		<p>セクシャルハラスメントに関して労働者からの相談に対応するための体制整備を図ることは重要なことではありますが、<u>事業展開が周知にとどまっていることから、この評価としました。</u></p> <p>本件に関する職員課と指導室の役割分担はどうなっているのか。相互に連携してこの問題に対処しているのか。<u>ハラスメントに対する問題意識を高めて頂きたい。企業ではすべての部門にハラスメント担当者を置いているところもある。</u></p> <p>28年度にあげた29年度の課題である<u>相談員のスキルアップに対して何も働きかけていないためこの評価にしました。苦情処理担当窓口の充実を図るため、何か動くべきだと思います。相談しやすい体制を整えるにしても、何がさまたげになっているか考える、調査する等した方がいいと思います。アンケートで現状把握や改善検討を行った会議の回数でもよいので評価できる数値や実績が次年度は欲しい。</u></p> <p>「本当に」<u>相談しやすい体制</u>を目指してもらいたい。</p> <p>29年度の相談件数が0（ゼロ）というのは「<u>相談しやすい体制を常時整えている</u>」のかを見直していただきたいと思います。実際に赴くだけでなく、<u>相談窓口の形（投書箱等）に工夫を期待します。</u></p> <p>相談件数0が、<u>事例がなかったからなのか、相談しにくい環境だったのか分からない。</u>相談しやすい環境をもっと整えて、その上で0ならずばらしいと思う。</p> <p>相談件数は29年度だけ0件なのか、毎年0件なのか<u>過去のデータも知れると良い。</u></p> <p>引き続き、<u>相談窓口の周知に努めていただき、より相談がしやすい環境・体制作りをお願いいたします。相談件数の目標設定は困難であり、相談件数がゼロであることは良いことではあります。実態把握、継続実施をしていくうえでの課題等について検討をお願いいたします。</u></p> <p>29年度は、引き続き相談窓口を設置し、教職員には各学校の校長を通じて周知した結果、相談件数が“0件”ということだが、<u>周知がなされていないか、相談しにくいという課題があるのではないかと推測される。</u>30年度の計画も申し訳ないが、やる気が感じられない。</p> <p>今日の社会状況では、あらゆる場面（スポーツ業界など）で問題が示されている。<u>この気運を上手く活用できないものかと考える。</u></p>											
		<p>判定理由及び改善策の提言等（案）</p> <p>事業展開が周知にとどまっているためこの評価としました。相談件数0が、事例がなかったからなのか、相談しにくい環境だったのかがわかりませんでした。相談しやすい体制なのかの見直し、実態把握、継続実施をしていくうえでの課題等について検討をお願いいたします。そして、相談件数の目標設定は困難ではあります。評価できる数値や実績の記入をお願いいたします。また、次期計画では、セクハラだけでなく、様々なハラスメントへの対策を検討してください。</p> <p>最近、スポーツ界等あらゆる場面でハラスメントの問題が起きていますので、今まで以上に問題意識を高めてください。</p>											
		C											

3 生涯を通じた健康支援

4 3 3 3 3 4 3 4 4 4

(1) 生涯を通じた健康保持・増進支援

		各委員による評価										評価平均	
81	健康診査事業の充実	健康推進課	B	C	C	C	C	B	C	B	B	B	3.5
		各委員 の意見	<p>高い検診率を維持していることから、この評価としました。今後も、引き続き受診を促すような啓発に取り組んでいただきたい。</p> <p>昨年度と同様の取組内容であるが、<u>受診率が向上</u>しているのでこの評価とした。30年度は新たな取組が計画されているので、<u>今年度の成果に期待</u>する。</p> <p>各健診とも定員充足率100%を目指してどのような取組をしたのかわからないのでこの評価にしました。30年度の目標計画が遂行され、100%に近づくことを期待します。</p> <p>受診率が上がっている。ただ、<u>乳がんの率がもう少し高いと、もっと良い</u>。若い方は高齢の方より受診しないのだろうか。年齢層がわかると良かった。</p> <p>検診により人数の変化があるが、肺がん検診のように大きく増えた理由もあるとわかりやすい。<u>他の事業と連携して周知機会の増加に努める計画はとても良い</u>と思う。</p> <p>前年度に比べ、ほとんどの検診において受診者の人数が増加しており、<u>啓発活動の成果</u>と思います。また、定員充足率や「計画及び目標」を具体的に記載されており、実態が把握できました。引続き、受診推奨に努めていただくようお願いいたします。</p> <p>目標の定員充足率100%は達成できていないが、<u>ほとんどの検診で受診者が増えている</u>。30年度の周知、啓蒙のための計画が具体的で、効果が期待できる。</p> <p>着実にガン検診の重要性が伝達できつつあると考える。</p>										評価
													B
判定理由及び改善策の提言等(案)	<p>高い受診率を維持しているためこの評価としました。今後は乳がんの受診率をもう少し上げてください。また、受診の結果、病気が発見できた方の統計があれば是非、記入してください。</p> <p>30年度は新たな取組が計画されており、成果に期待します。</p>												

Ⅲ 人権が尊重される社会の形成

4 相談体制の充実

4 3 3 4 3 3 2 3 3 3

(1) 相談窓口の充実

		各委員による評価										評価平均	
89③	女性自身に関する相談	子育て支援課	B	C	C	B	C	C	D	C	C	C	3.1
各委員 の意見	相談件数について、前年度と比較し、約41%の増加があり、多くの市民の悩みに対応していることが伺えるので、この評価としました。今後も、相談を受けるだけにとどまらず、関係機関と連携を図り悩みの解決に向けて実効性のある支援に努めてもらいたい。											評価	
	昨年度から相談件数の増加が懸念されているが、その対応についての記述がない。どのように対応したのか、今後どのような手を打っていくのか。											C	
	相談受付の周知活動による件数増加か純増なのか具体的な取組内容がないのでわからない。増加件数への対応や相談体制維持のため何か取組んでいるのか等、詳しく記載してほしい。												
	相談件数のアップは一定の評価ができるが、当事者が本当に問題解決の一助になったかどうかの検証も分析することも必要である。												
	とても大切で必要でデリケートな事業内容ですので、引き続き地道に対応をお願いいたします。												
	相談件数はかなり増えているが、今後の課題や計画等、前年度と同じで、対応が可能なのか疑問な為。												
	多くの相談件数に対し、対応可能な体制が整っていることは活動の成果と思います（相談件数の数値はこれまでの延べ件数でしょうか）。新規相談、継続相談の割合等、現状も踏まえていただきながら、引き続き、相談体制の支援充実に努めていただくようお願いいたします。												
	相談内容が複雑、多様化している中で、適切な助言、支援ができるようなアクションをとったのかが不明。関連機関とも具体的にどのような連携をとっていくのか？たとえば、関連機関と定期ミーティングを毎月、3ヶ月に1回開催する、といった具体的な目標設定をしていただきたい。												
関係機関との連携強化は大変効果が得られると思える。離婚などでシングルマザーも増加傾向にあるので、迅速な対応が求められる。													
判定理由 及び 改善策の 提言等 (案)	多くの相談を受け、件数に対し、対応可能な体制が整っていることは取り組みの成果だと思いますが、今後の課題や計画等、前年度と同じであり、進捗していることが見えないため、この評価としました。また、相談員を増員したようですが、その記述があるとさらに良いと思います。 相談件数の増加理由や当事者が本当に問題解決の一助になったかを検証することも必要だと思います。 引き続き、相談体制の支援充実に努めてください。												

IV 男女共同参画社会づくり

1 普及・啓発活動の推進

3 3 4 3 3 3 3 3 3 4

(3) 推進体制の充実

96	スクエア21・女性センターの運営	地域コミュニティ課	各委員による評価										評価平均
			C	C	D	C	C	C	C	C	C	B	3.2

評価平均
3.2
評価
C

各委員 の意見	センターの稼働率については、前年度と比較して約13%減少しているものの、来館者数については約4%の減少にとどまり、多くの来館者数を維持していることから、センターの機能を多くの市民が活用していることが伺えるので、この評価としました。今後も市民のニーズの把握を怠ることなく、男女を問わず市民が施設を利用したくなるように機能を充実し、魅力ある拠点になることを期待します。
	昨年度と比較するとDと評価すべきであるが、ここ数年の推移や男性参加者は増えていることなどからこの評価とした。なぜ来館者が増えないかの分析が必要、予定されている市民意識調査の結果からその原因を探してほしい。
	2,000人減となったため。市民のニーズを把握、魅力ある講座、30年度では男性向け講座の実施で来館者数増を期待します。
	各種講座の充実・回数を増やして稼働率アップにつなげてもらいたい。
	28年度の講座数は？来館者数の減少はなぜ？今後利用料を有償化する上で課題です。稼働率を上げる上でも講座の内容や開催時間が重要だと思います。期待しております。
	意見なし。
	来館者・稼働率ともに前年に比べ減ってはいるが、対応としての計画が立てられているのでこの評価としました。
	過去の来館者数、稼働率等の推移を調査し、「評価の内容」、「今後の課題」「計画および目標」等を具体的に掲げられており、積極的な取組みをされているものと思います。新規利用者のみならず、再利用者の増加も視野に入れ、引続きの周知に努めていただくようお願いいたします。

判定理由及び改善策の提言等(案)	来館者数は減少していますが、課題であった男性の利用者数が増加しているため、この評価としました。今後も、男性が家事や子育てに対して主体的に活動できるよう積極的に働きかけてください。また、「男女共同参画社会」という言葉が世間に浸透していないこともセンターが知られていない要因の1つだと思います。来年度はセンター名称が変更されますので、周知活動等を積極的に行い、センターや「男女共同参画社会」の認知率を上げ、来館者や稼働率の増加につなげてください。
------------------	---

府中市男女共同参画に関する 意識調査報告書（案）

平成30年11月

府中市

目次

I. 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の対象.....	1
3. 調査の期間.....	1
4. 調査の手法.....	1
5. 回収数・回収率.....	1
6. 報告書のみかた.....	1
II. 調査結果.....	2
1. 回答者のプロフィール.....	2
2. あらゆる分野における男女共同参画について.....	4
3. ワーク・ライフ・バランスについて.....	18
4. 人権が尊重される社会の形成について.....	22
5. 男女共同参画社会づくりに向けた市の施策について.....	32

I. 調査概要

1. 調査の目的

平成 27 年度に策定した「第 5 次府中市男女共同参画計画」が平成 31 年度で 5 年間の計画期間を終えるにあたり、今後の府中市の男女共同参画社会の更なる実現を目指した「第 6 次府中市男女共同参画計画」の策定に向け、今後の施策を進めるうえでの基礎資料として、市民の皆様の男女共同参画などの状況を把握し、市の施策に対するご意見を伺うため、アンケート調査を実施した。

2. 調査の対象

府中市に在住の満 18 歳以上の方の中から、2,000 人を無作為に抽出した。

3. 調査の期間

平成 30 年 9 月 1 日（土）～平成 30 年 9 月 18 日（火）

4. 調査の手法

郵送により配布し、郵送により回収。

5. 回収数・回収率

配布数	2,000 票
回収数	772 票
回収率	38.6%

6. 報告書のみかた

- (1) 回答は、それぞれの質問の回答者数を母数とした百分率（%）で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合は N、それ以外の場合には n と表記している。
- (2) % は小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記している。したがって、回答の合計が必ずしも 100% にならない場合がある。
- (3) 回答者が 2 つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、% の合計は 100% を超えることがある。
- (4) 年齢別クロスコメントは全体、性別のグラフの後に▶で始まる箇条書きで掲載している。

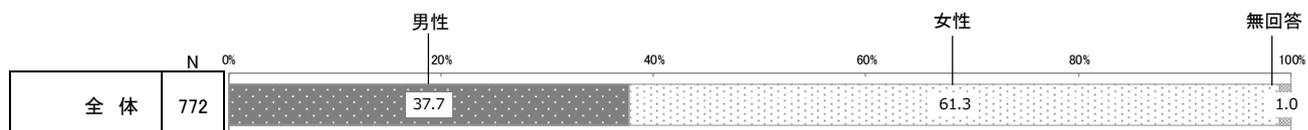
Ⅱ. 調査結果

1. 回答者のプロフィール

(1) 性別

「男性」37.7%、「女性」61.3%となっており、女性比率が高い。

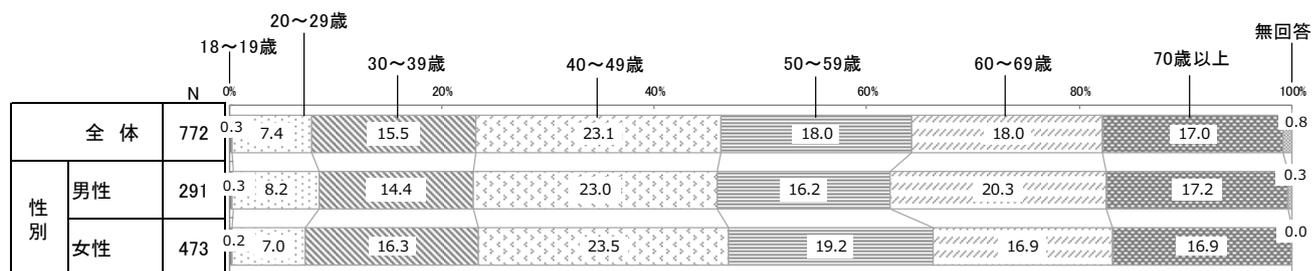
図表1-1 性別（全体）



(2) 年齢

最も多いのは「40～49歳」の23.1%で、次いで「50～59歳」と「60～69歳」が18.0%となっており、40～60代で全体の59.1%を占める。

図表1-2 年齢（全体、性別）

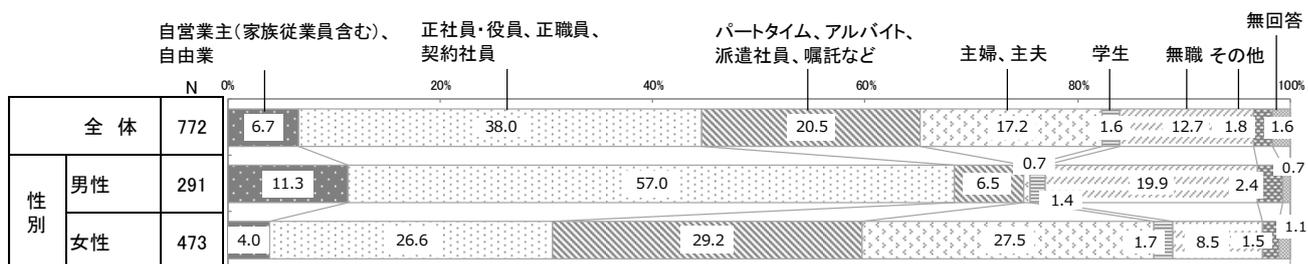


(3) 職業

「正社員・役員、正職員、契約社員」が38.0%と多い。

男女別では、男性は「正社員・役員、正職員、契約社員」が57.0%と多い。女性は「パートタイム、アルバイト、派遣社員、嘱託など」が29.2%と最も多く、僅差で「主婦、主夫」が27.5%、「正社員・役員、正職員、契約社員」が26.6%と続いている。

図表1-3 職業（全体、性別）

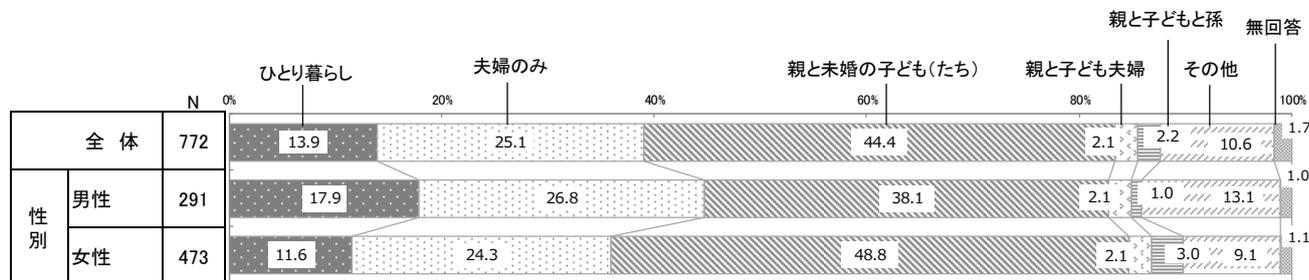


(4) 世帯構成

「親と未婚の子ども(たち)」が44.4%と多い。

女性では「親と未婚の子ども(たち)」が48.8%と多く、男性は38.1%となっている。男性は「ひとり暮らし」「夫婦のみ」「その他」で女性より多くなっている。

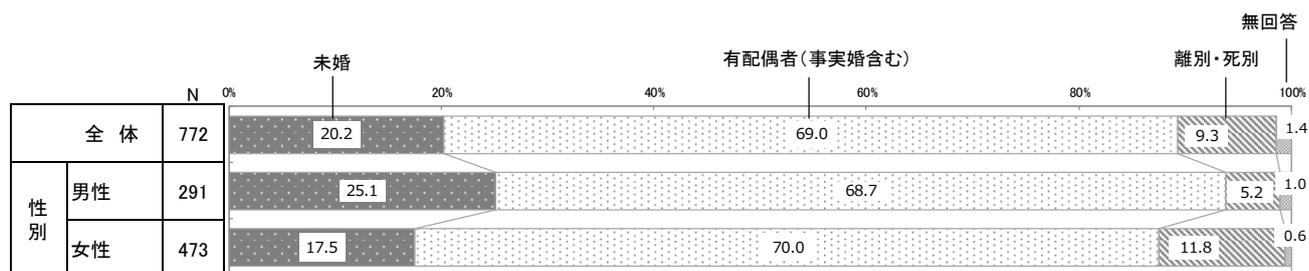
図表1-4 世帯構成(全体、性別)



(5) 婚姻の有無

婚姻の有無は「有配偶者(事実婚含む)」が69.0%で最も多い。

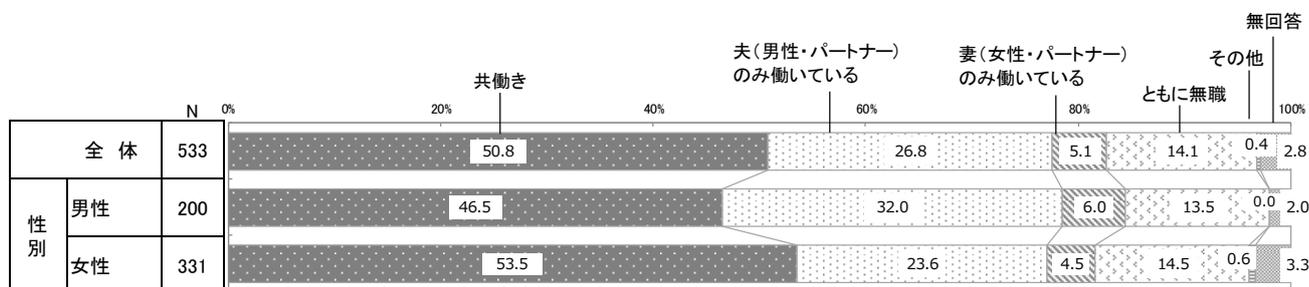
図表1-5 婚姻の有無(全体、性別)



(6) 家庭の勤務形態

有配偶者の勤務形態は「共働き」が50.8%と多い。

図表1-6 家庭の現在の勤務形態(全体、性別)



2. あらゆる分野における男女共同参画について

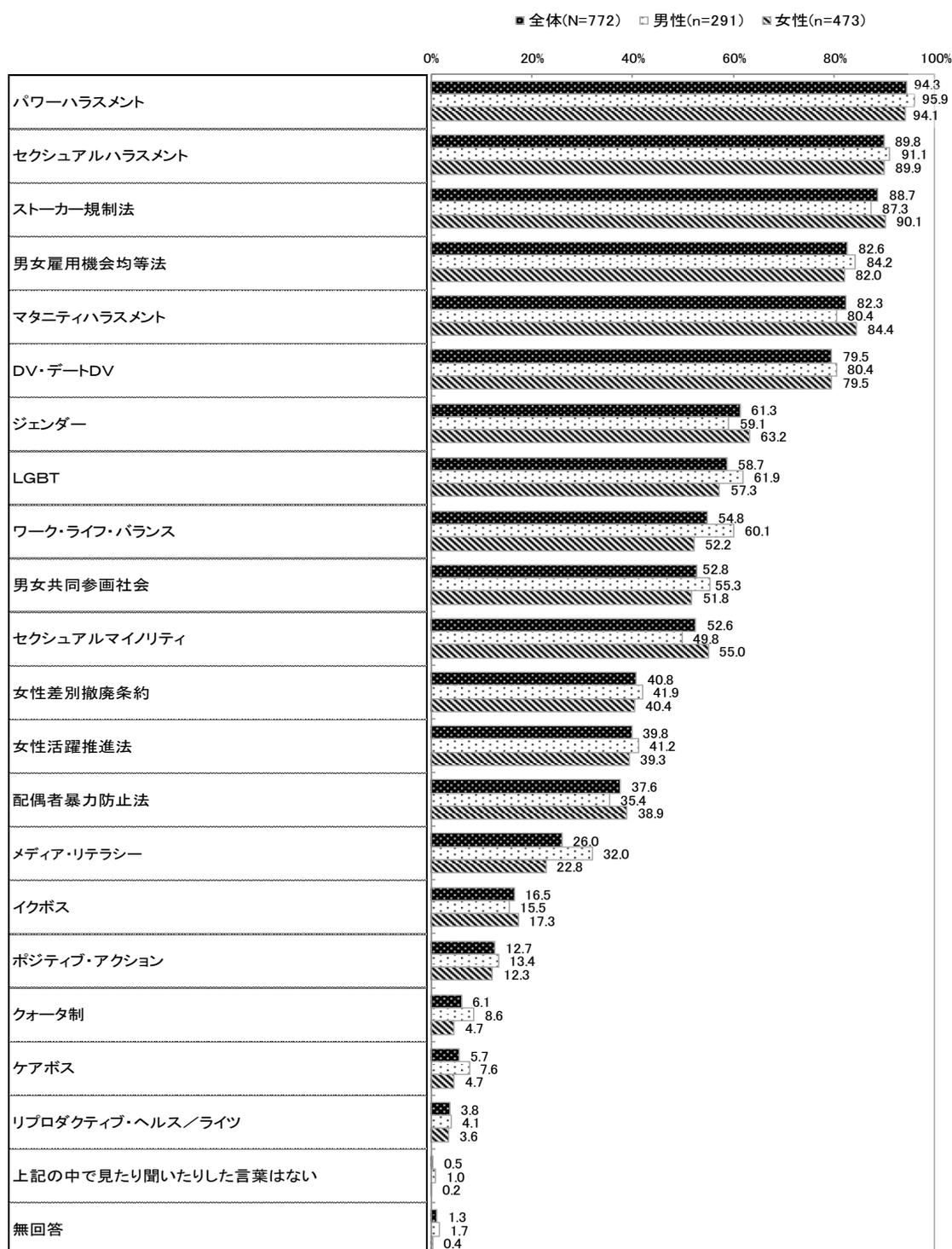
問 1

以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。(〇はいくつでも)

「男女共同参画社会」は52.8% (男性55.3%、女性51.8%) である

最も認知率が高い言葉は「パワーハラスメント」で94.3%である。そのほか、「セクシュアルハラスメント」「ストーカー規制法」「男女雇用機会均等法」「マタニティハラスメント」の認知率は80%以上である。一方、「クォータ制」「ケアボス」「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は1割以下となっている。

図表一問1 見たり聞いたりしたことがある言葉(全体、性別)



Ⅱ－２ あらゆる分野における男女共同参画について

(年齢別集計結果より)

- ▶男性は 30～39 歳、女性は 20～29 歳、30～39 歳で多くの用語の認知率が全体平均より 10 ポイント以上上回っている。
- ▶「男女共同参画社会」の認知率は、男性の 20～29 歳 (66.7%)、60～69 歳 (66.1%)、女性の 20～29 歳 (69.7%) で全体平均より 10 ポイント以上上回っている。

「男女共同参画社会」は 52.8% (男性 55.3%、女性 51.8%) にとどまり、国の平成 28 年の調査の平均(66.6%)に及ばなかった(※国は「男女共同参画社会」という用語の周知度の目標値を 100% としている)。

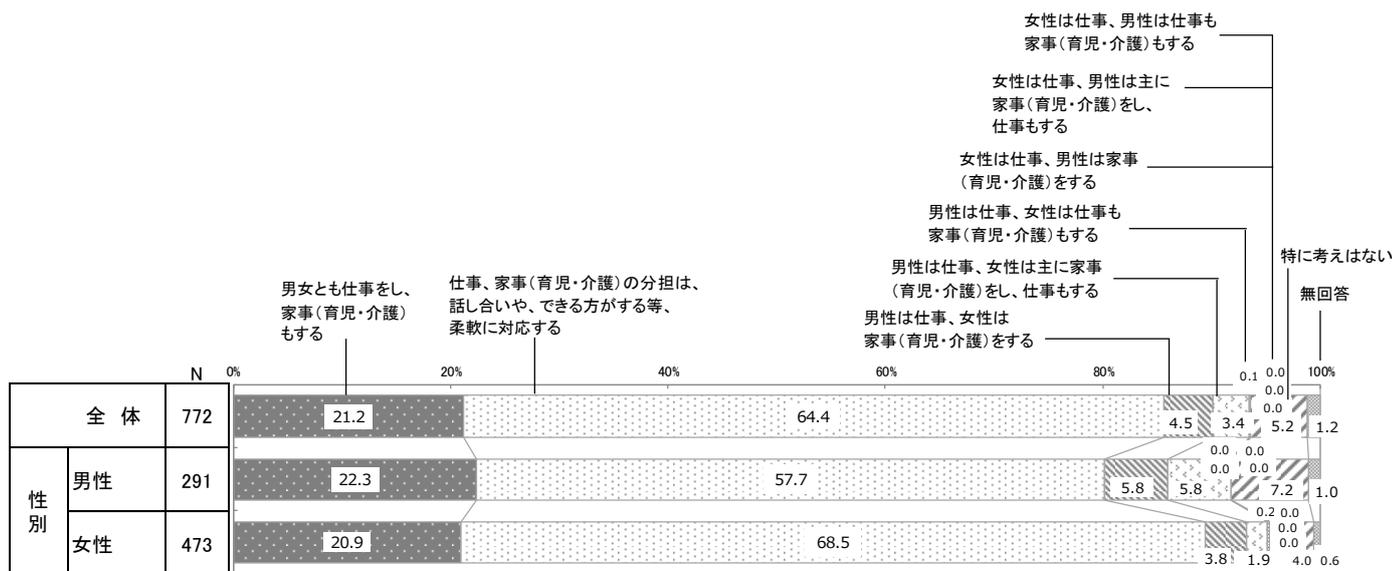
※国は「男女共同参画社会」という用語の周知度の目標値を 100%としている。
平成 28 年度の国の「男女共同参画社会に関する世論調査」結果は
「男女共同参画社会」の周知率は 66.6% (男性 70.4%、女性 63.3%)。

問2 家庭における男女のあり方は、本来どうあるべきだと思いますか。(〇は1つ)

「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応」が約6割で最多

理想(本来あるべき)は、「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する」が全体で64.4%と最も多く、「男女とも仕事をし、家事(育児・介護)もする」が21.2%で続く。

図表一問2-① 家庭における男女のあるべきあり方(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

▶「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する」は男性の20~29歳(75.0%)、女性の20~29歳(81.8%)と30~39歳(76.6%)で全体平均より10ポイント以上上回っている。

理想の「仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する」は今回新設した選択肢のため経年比較はできないが、H25世論調査、H26世論調査ともに「男女とも仕事をし、家事(育児・介護)もする」が52.9%、63.0%で最も多い。

図表一問2-② 家庭における男女のあるべきあり方【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)	H25世論調査 (N=836)
男女とも仕事をし、家事(育児・介護)もする	21.2	63.0	52.9
仕事、家事(育児・介護)の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応する	64.4		
男性は仕事、女性は家事(育児・介護)をする	4.5	11.4	5.7
男性は仕事、女性は主に家事(育児・介護)をし、仕事もする ※1	3.4	5.8	24.4
男性は仕事、女性は仕事も家事(育児・介護)もする	0.1	1.1	1.0
女性は仕事、男性は家事(育児・介護)をする	0.0	0.0	0.0
女性は仕事、男性は主に家事(育児・介護)をし、仕事もする ※2	0.0	0.0	0.1
女性は仕事、男性は仕事も家事(育児・介護)もする	0.0	0.1	0.0
特に考えはない	5.2	16.5	15.0
無回答	1.2	2.1	1.0

※1 H25は「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」

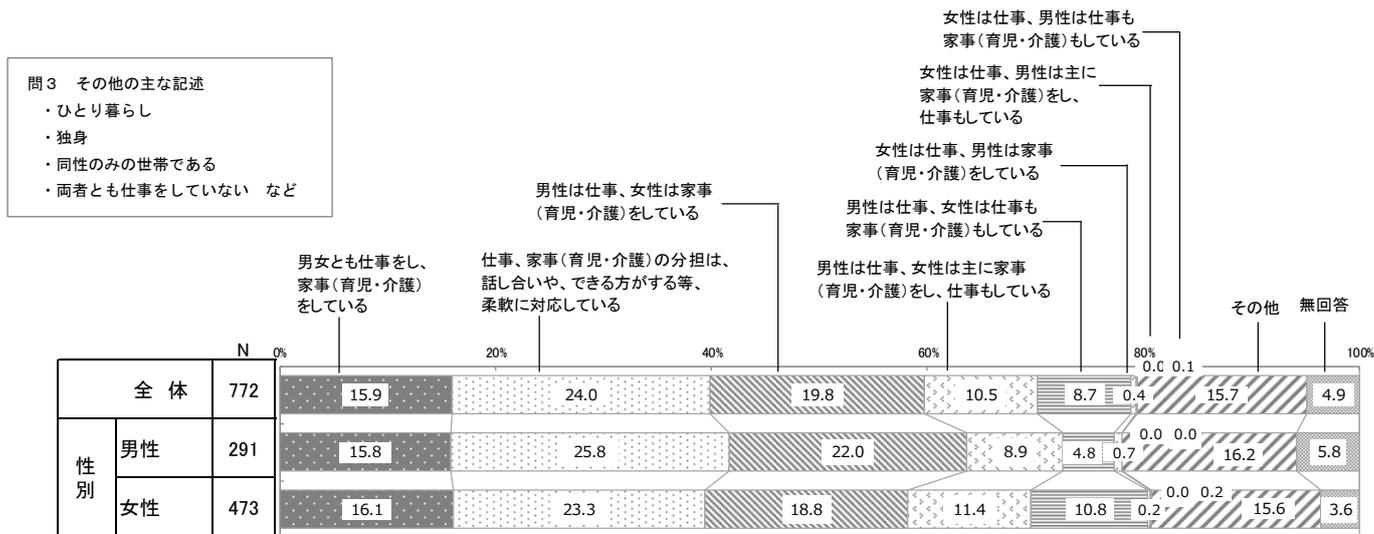
※2 H25は「女性は仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をする」

問3 実際にあなたの家庭では、どのようになっていますか。(〇は1つ)

「仕事、家事（育児・介護）の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応」が最多だが2割強

現実（実際）は、「仕事、家事（育児・介護）の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応している」が最も多いが、理想では64.4%に対し、全体で24.0%にとどまっている。次いで「男性は仕事、女性は家事（育児・介護）をしている」が19.8%となっている。

図表一問3—① 実際の家庭での男女のあり方（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

▶男性の20～29歳、30～39歳で「男女とも仕事をし、家事（育児・介護）をしている」が全体平均より10%ほど上回っている。

H25世論調査では「男女とも仕事をし、家事（育児・介護）をしている」が23.4%、H26世論調査は「男性は仕事、女性は家事（育児・介護）をしている」が31.5%で最も多い。

図表一問3—② 実際の家庭での男女のあり方【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)	H25世論調査 (N=836)
男女とも仕事をし、家事（育児・介護）をしている	15.9	20.0	23.4
仕事、家事（育児・介護）の分担は、話し合いや、できる方がする等、柔軟に対応している	24.0		
男性は仕事、女性は家事（育児・介護）をしている	19.8	31.5	21.7
男性は仕事、女性は主に家事（育児・介護）をし、仕事もしている ※1	10.5	9.6	19.5
男性は仕事、女性は仕事も家事（育児・介護）もしている	8.7	10.0	9.9
女性も仕事、男性は家事（育児・介護）をしている	0.4	0.7	0.4
女性も仕事、男性は主に家事（育児・介護）をし、仕事もしている	0.0	0.2	0.4
女性も仕事、男性は仕事も家事（育児・介護）もしている ※2	0.1	0.2	0.4
ひとり暮らし、または同性のみの世帯である			18.8
その他	15.7	24.8	
無回答	4.9	3.0	5.6

※1 H25は「男性は仕事、女性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」
 ※2 H25は「女性は仕事、男性は家事・育児にさしつかえない範囲で仕事をしている」

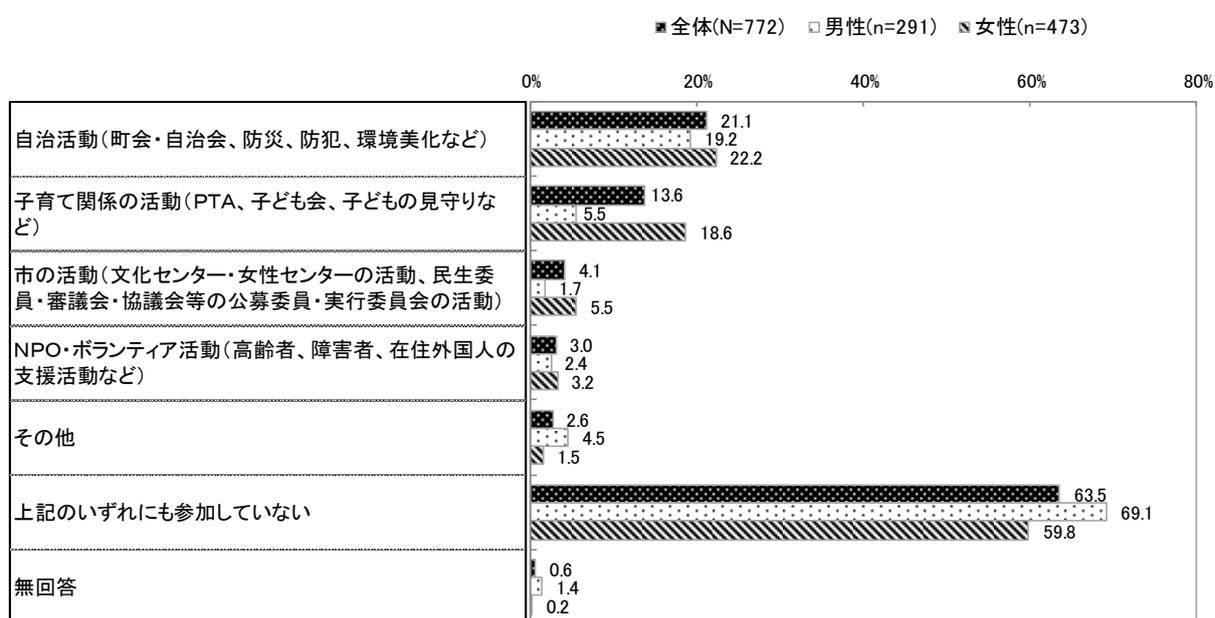
問4 あなたは市や地域での活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

「いずれも参加していない」と回答した男性は69.1%で、女性より多い

市や地域での参加率の高い活動は「自治活動(町会・自治会、防災、防犯、環境美化など)」で21.1%、「子育て関係の活動(PTA、子ども会、子どもの見守りなど)」は13.6%。全体の約6割が「いずれにも参加していない」と回答している。

「子育て関係の活動(PTA、子ども会、子どもの見守りなど)」は女性18.6%に対し、男性5.5%で男女差が大きい。「いずれも参加していない」も男性が69.1%で女性の59.8%を大きく上回っている。

図表一問4 市や地域での活動への参加状況(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶女性の40～49歳で「子育て関係の活動」が44.1%と多く、70歳以上では「自治活動」(36.3%)、「市の活動」(18.8%)が多くなっている。
- ▶男性の20～29歳、30～39歳では「いずれにも参加していない」がそれぞれ91.7%、81.0%と特に多くなっている。

(問4で「6. 1～5のいずれにも参加していない」と答えた方にうかがいます)

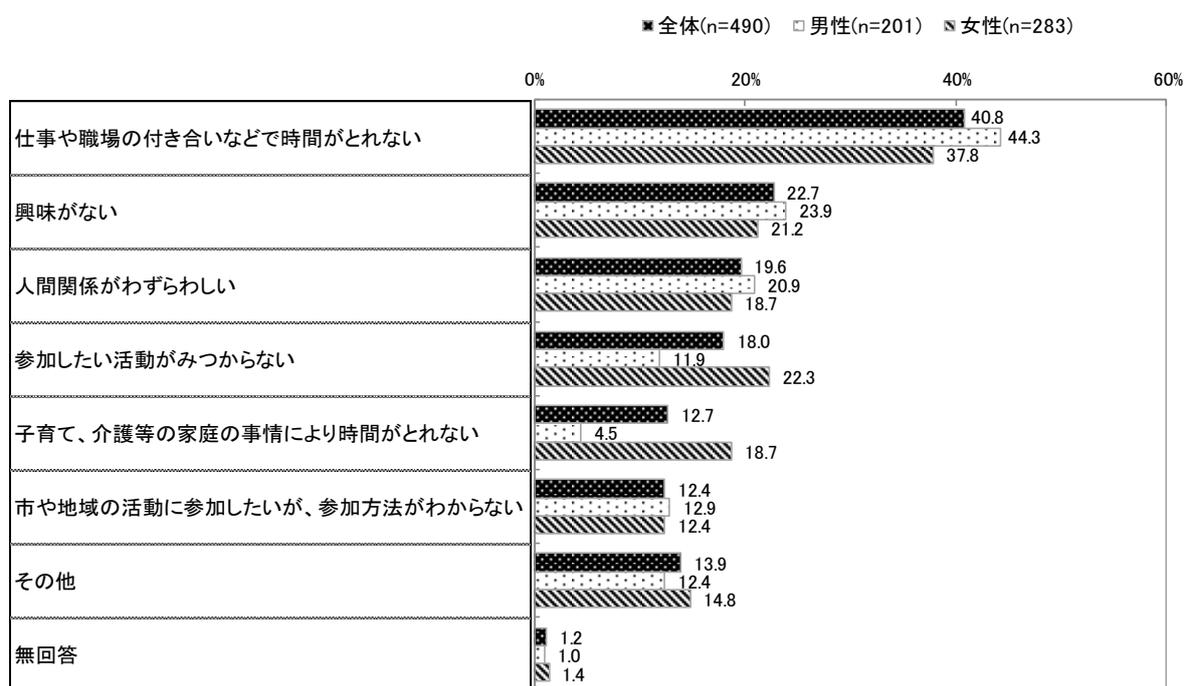
問4-1 参加していない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

参加しない理由としては「仕事や職場の付き合いなどで時間がとれない」が最多

参加しない理由としては「仕事や職場の付き合いなどで時間がとれない」が40.8%、「興味がない」が22.7%となっている。

「参加したい活動が見つからない」は女性が22.3%、男性が11.9%、「子育て、介護等の家庭の事情により時間がとれない」は女性が18.7%、男性が4.5%と男女差が見られる。

図表一問4-1 市や地域での活動への不参加理由(全体、性別)



問4-1 その他の主な記述

- ・体力がないから
- ・健康上の理由から
- ・高齢だから
- ・情報がないから など

(年齢別集計結果より)

▶男女とも20～29歳、男性の60～69歳で「興味がない」が4割前後と全体平均より大きく上回っている。

問5

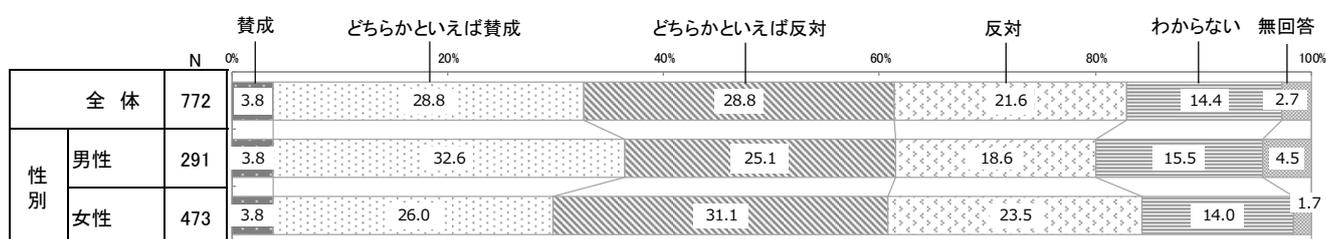
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。(○は1つ)

「反対」と考える人が多い。「どちらかといえば賛成」と「どちらかといえば反対」が28.8%で拮抗している

「反対」(21.6%)と「どちらかといえば反対」(28.8%)を合わせると50.4%となり、「賛成」(3.8%)と「どちらかといえば賛成」(28.8%)を合わせた32.6%を大きく上回る。

男女別では、女性は「どちらかといえば反対」を含む「反対」が54.6%で、男性の43.7%を10ポイント以上上回る。

図表一問5-① 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶ 「どちらかといえば賛成」は男女とも70歳以上で多く、特に男性では46.0%と全体平均を大きく上回っている。

国の調査と比較すると、全体では「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方の「賛成」割合が府中市の方が国より少ない。

図表一問5-② 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について【国との比較】

	(%)	
	府中市	国
・ 賛成	3.8	8.8
・ どちらかといえば賛成	28.8	31.7
賛成 (小計)	32.6	40.6
・ どちらかといえば反対	28.8	34.8
・ 反対	21.6	19.5
反対 (小計)	50.4	54.3
わからない	14.4	5.1

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

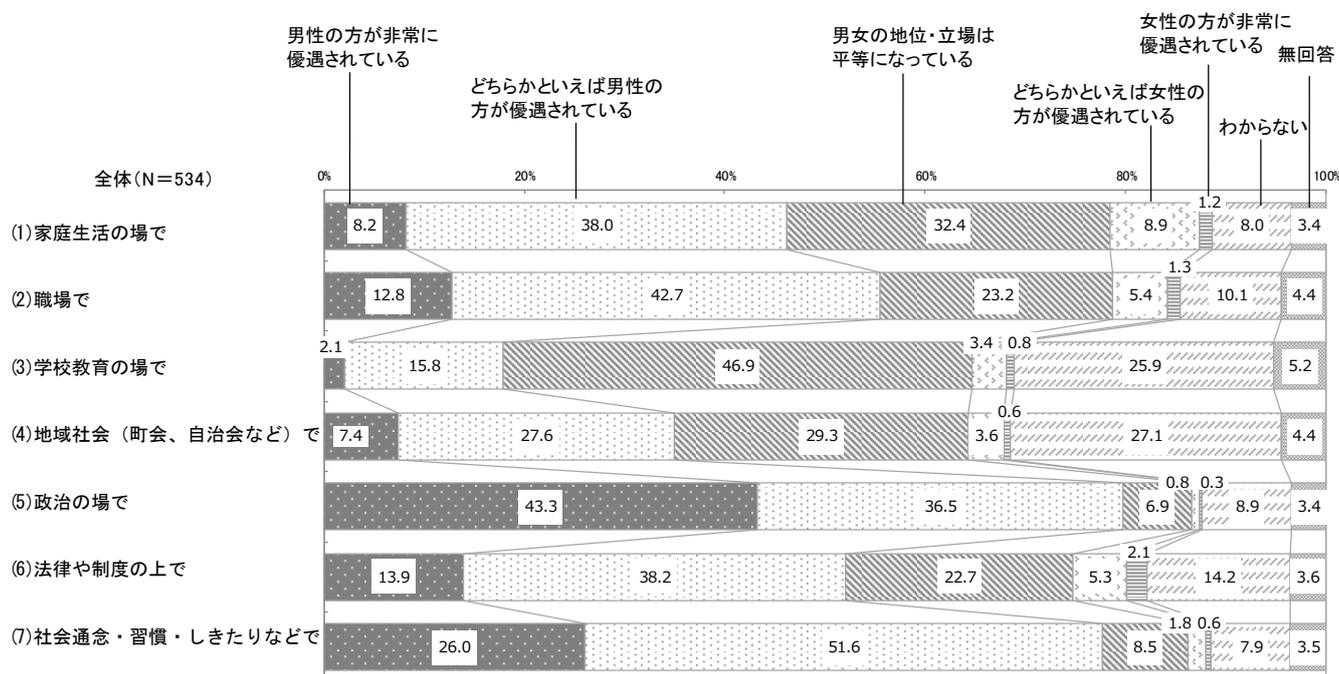
問6

あなたは次の(1)～(7)の分野で男女の地位・立場が平等になっていると思いますか。(それぞれについて○は1つ)

「男女の地位・立場は平等になっている」との回答率が最も高いのは「学校教育の場で」。逆に最も低いのは「政治の場で」

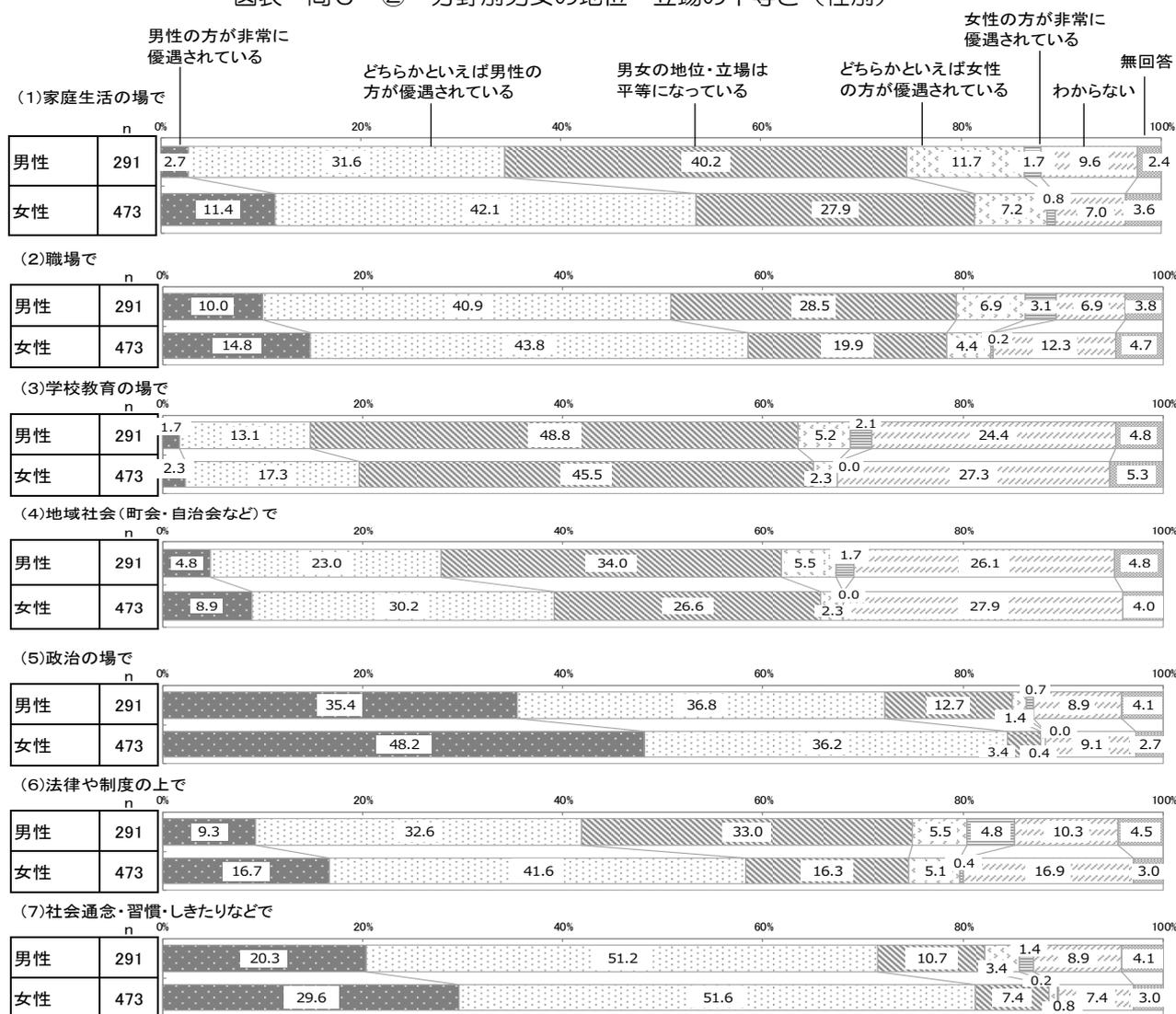
「男女の地位・立場は平等になっている」の回答が多いのは、「学校教育の場で」が46.9%、「家庭生活の場で」が32.4%、「地域社会(町会・自治会など)で」が29.3%である。逆に最も低いのは「政治の場で」の6.9%、2番目に低いのは「社会通念・習慣・しきたりなどで」の8.5%となっている。「政治の場で」は「男性の方が非常に優遇されている」が43.3%と多くなっている。

図表一問6-① 男女の地位評価(全体)



男女別では、「家庭生活の場で」の優遇に関する認識の差が明らかとなっている。

図表一問6-② 分野別男女の地位・立場の平等さ（性別）



(年齢別集計結果より)

▶ 男性の60～69歳は全体的に「男女の地位・立場は平等になっている」との回答が多い。

国や都の調査と比較すると、「学校教育の場」の「平等」回答率は高くない。同様に、「家庭生活」の「平等」回答率もやや低くなっている。

図表一問6-③ 男女の地位評価

【東京都と国との比較-「男女の地位・立場は平等になっている」の全体の%-】

	府中市	東京都	国
(1) 家庭生活の場で	32.4	40.4	47.4
(2) 職場で	23.2	22.9	29.7
(3) 学校教育の場で	46.9	76.3	66.4
(4) 地域社会(町会・自治会など)で	29.3	46.2	47.2
(5) 政治の場で	6.9	16.8	18.9
(6) 法律や制度の上で	22.7	40.0	40.8
(7) 社会通念・習慣・しきたりなどで	8.5	21.0	21.8

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

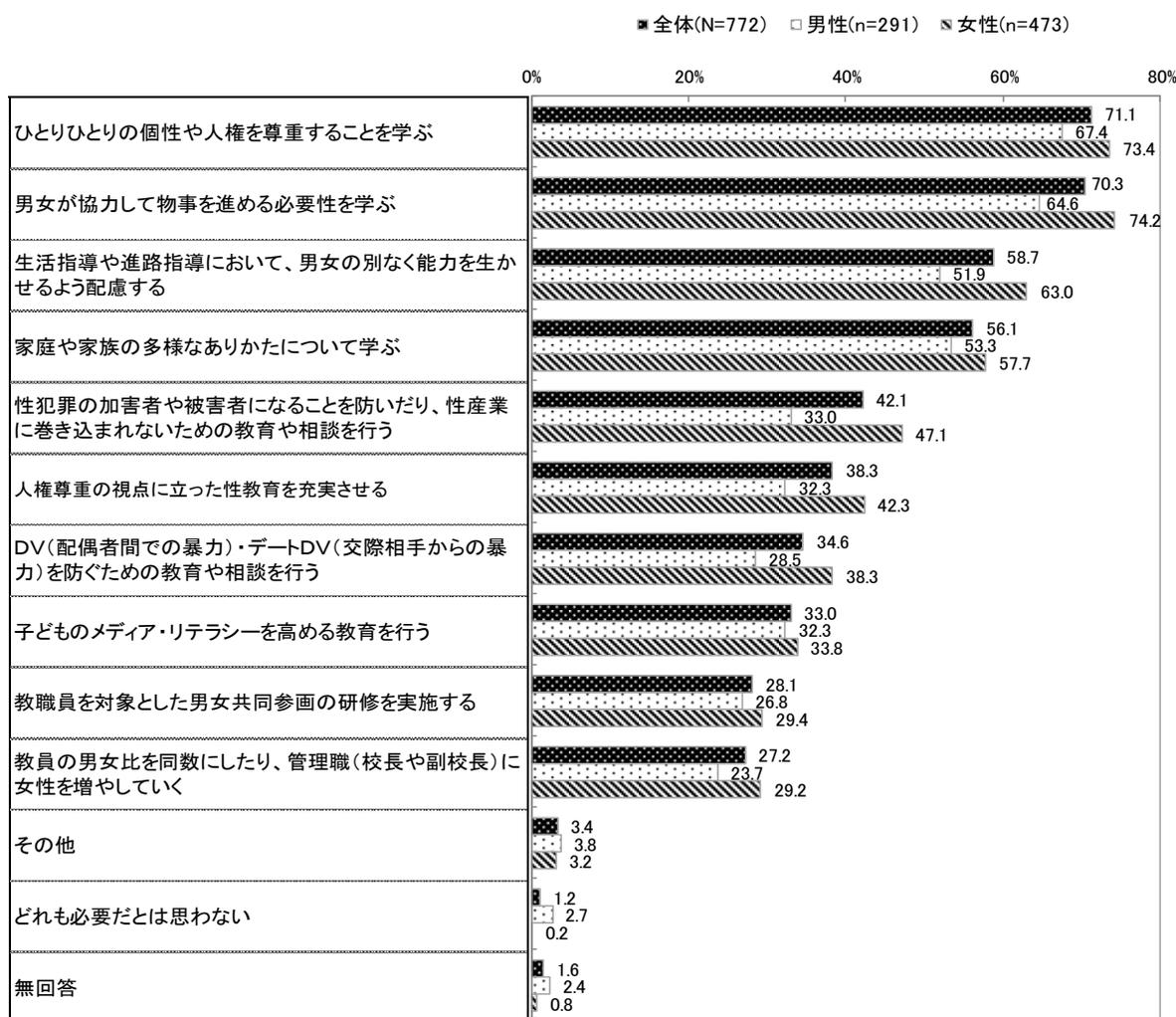
問7 児童・生徒の男女共同参画の意識を育てるために、学校教育で特に必要な取り組みは何だと思えますか。(○はいくつでも)

「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」の回答が7割と高い

「ひとりひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」が71.1%と最も多く、「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」70.3%、「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が58.7%と続いている。

男女別では、「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」「性犯罪の加害者や被害者になることを防いだり、性産業に巻き込まれないための教育や相談を行う」「人権尊重の視点に立った性教育を充実させる」「DV（配偶者間での暴力）・デートDV（交際相手からの暴力）を防ぐための教育や相談を行う」で男性より女性の方が10ポイントほど上回っている。

図表一問7 学校教育で特に必要な取り組み（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

▶「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」が女性の60～69歳(70.0%)、70歳以上(75.0%)で多くなっている。

「性別に応じてプライバシー（トイレ・更衣・授乳・就寝スペース等）が確保できる避難所運営を

問 8

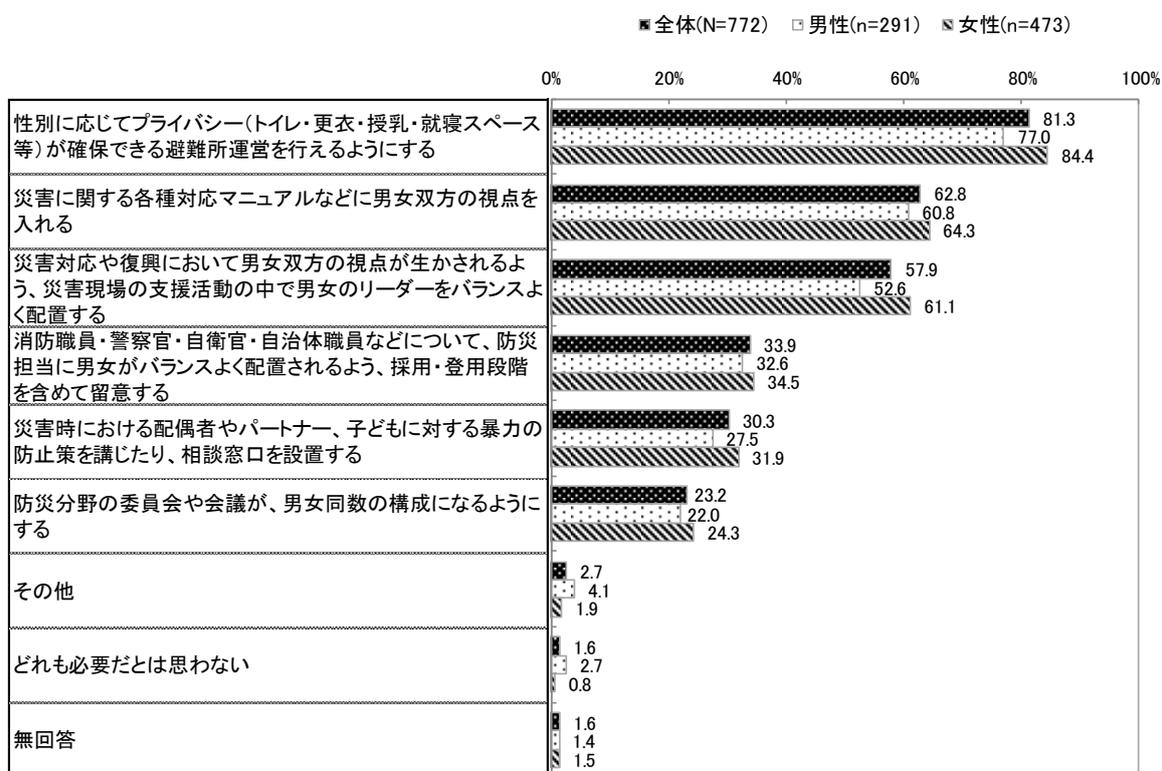
あなたは、災害対策に男女双方の視点を生かすためには、特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「性別に応じてプライバシー(トイレ・更衣・授乳・就寝スペース)が確保できる避難所運営を行えるようにする」の回答が8割と高い

「性別に応じてプライバシー(トイレ・更衣・授乳・就寝スペース)が確保できる避難所運営を行えるようにする」が81.3%と最も多く、「災害に関する各種対応マニュアルなどに男女双方の視点を入れる」が62.8%、「災害対応や復興において男女双方の視点が活かされるよう、災害現場の支援活動の中で男女のリーダーをバランスよく配置する」が57.9%で続く。

全体的に女性の方が男性より回答が多くなっている。

図表一問8 災害対策に男女双方の視点を生かすために重要なこと(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

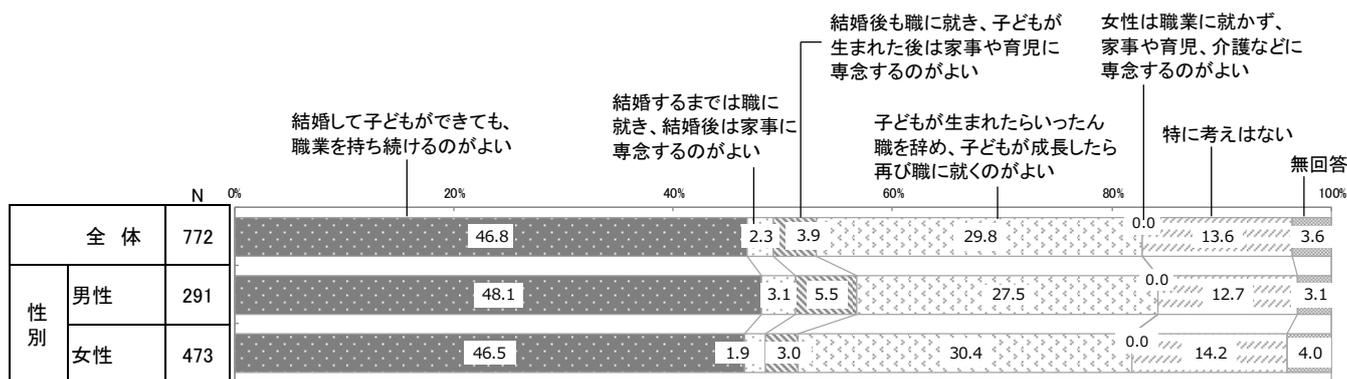
▶年齢別で顕著な傾向は見られない。

問9 女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」が最多

最も多い「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」(46.8%)と、2番目に多い「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」(29.8%)を合わせると8割近くなる。

図表一問9—① 女性が職業を持つことについての考え(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶ 「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」が女性の20~29歳(60.6%)、男性の30~39歳(57.1%)、60~69歳(59.3%)で多くなっている。
- ▶ 「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」は男性の70歳以上(42.0%)と女性の60~69歳(48.8%)で多くなっている。

経年比較でみると、H26世論調査では、「子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい」(41.7%)が最も多く、2番目が「結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい」(33.2%)となっており、今回調査で順位が逆転した。(H25世論調査では該当質問無し)

図表一問9—② 女性が職業を持つことについての考え【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	46.8	33.2
結婚するまでは職に就き、結婚後は家事に専念するのがよい	2.3	3.0
結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい	3.9	5.2
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい	29.8	41.7
女性は職業に就かず、家事や育児、介護などに専念するのがよい ※	0.0	0.9
特に考えはない	13.6	13.6
無回答	3.6	2.4

※H26は「女性は職業に就かず、家事や育児、習い事などに専念するのがよい」

Ⅱ－２ あらゆる分野における男女共同参画について

国や都の調査と比較すると、「女性が職業を持ち続ける方がよい」の回答率はやや低い。（選択肢の文章が若干異なる）

図表一問9―③ 女性が職業を持つことについての考え【東京都と国との比較】

(%)

	府中市	東京都	国
結婚して子どもができて、職業を持ち続けるのがよい	46.8	51.7	54.2
結婚するまでは職に就き、結婚後は家事に専念するのがよい	2.3	3.2	4.7
結婚後も職に就き、子どもが生まれた後は家事や育児に専念するのがよい	3.9	7.0	8.4
子どもが生まれたらいったん職を辞め、子どもが成長したら再び職に就くのがよい	29.8	29.2	26.3
女性は職業に就かず、家事や育児、介護などに専念するのがよい	0.0	1.0	3.3
特に考えはない	13.6		
無回答	3.6		

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

※府中市、東京都、国では選択肢の文章が若干異なる

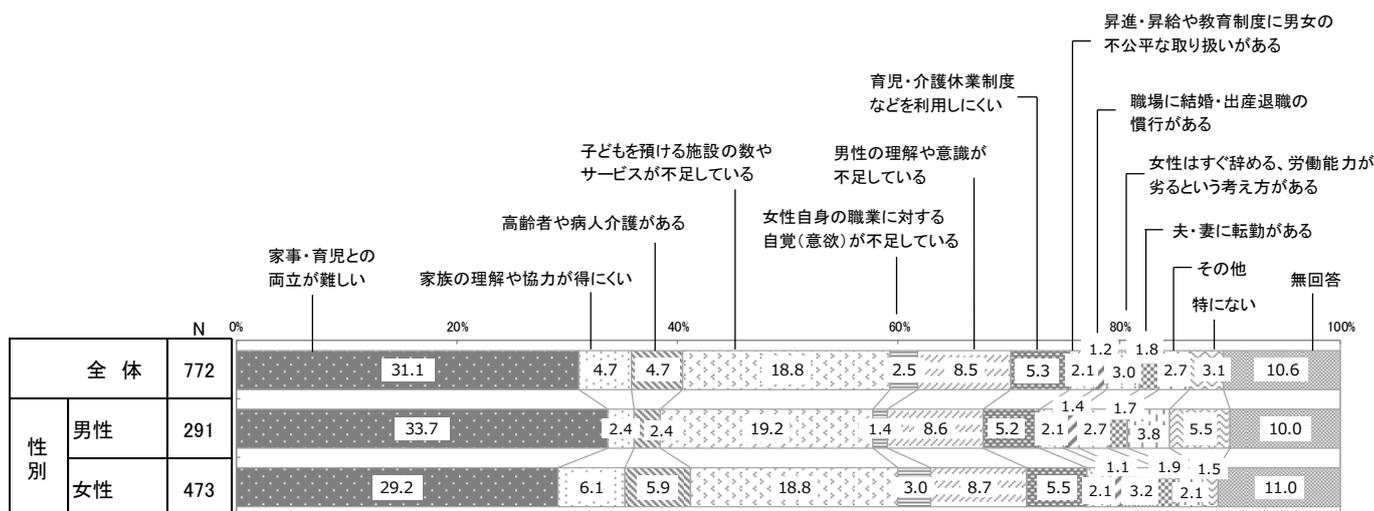
問 10

女性が職業を長く持ち続けていくうえで、壁になっているものがあると思いますか。最も大きな壁と思われるものを選んでください。(〇は1つ)

「家事・育児との両立が難しい」が3割強と最も多い

「家事・育児との両立が難しい」(31.1%)に続き、「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」が18.8%と多く、次いで「男性の理解や意識が不足している」の8.5%、3番目以降は一桁となっている。

図表一問 10—① 女性が職業を長く持ち続けていくうえで最も大きな壁(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

▶年齢別で顕著な傾向は見られない。

経年比較でみるとH26世論調査、H25世論調査でも「家事・育児との両立が難しい」がそれぞれ38.7%、34.1%と最も多く、2番目も「子どもを預ける施設の数やサービスが不足している」(25.7%、20.2%)で今回と同様である。

図表一問 10—② 女性が職業を長く持ち続けていくうえで最も大きな壁【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)	H25世論調査 (N=836)
家事・育児との両立が難しい	31.1	38.7	34.1
家族の理解や協力が得にくい	4.7	4.6	3.3
高齢者や病人介護がある	4.7	8.6	8.6
子どもを預ける施設の数やサービスが不足している	18.8	25.7	20.2
女性自身の職業に対する自覚(意欲)が不足している	2.5	1.9	3.0
男性の理解や意識が不足している	8.5		
育児・介護休業制度などを利用しにくい	5.3	4.7	5.1
昇進・昇給や教育制度に男女の不公平な取り扱いがある	2.1	2.3	3.6
職場に結婚・出産退職の慣行がある	1.2	2.5	1.1
女性はすぐ辞める、労働能力が劣るといふ考え方がある	3.0	2.0	1.6
夫・妻に転勤がある	1.8	0.8	0.8
その他	2.7	1.9	3.8
特になし	3.1	3.2	11.5
無回答	10.6	3.0	3.2

3. ワーク・ライフ・バランスについて

問 11

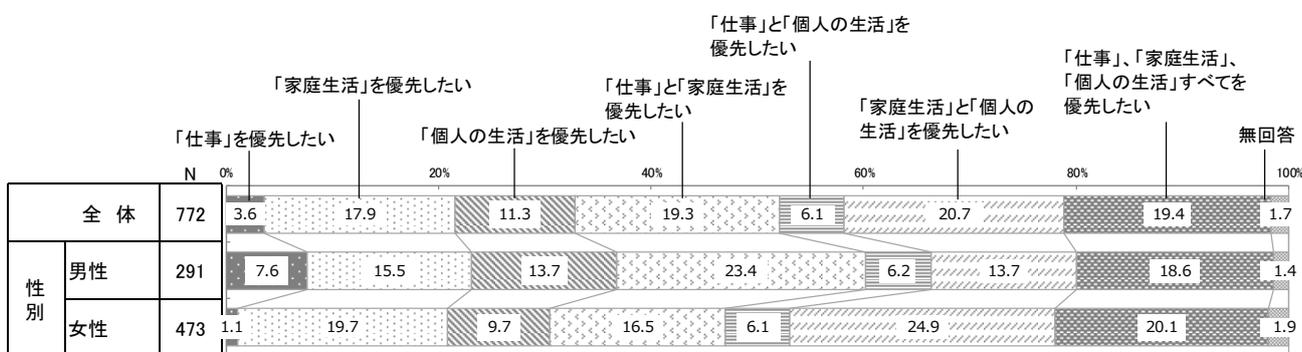
あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。（〇は1つ）

「希望」では『家庭生活』と『個人の生活』を優先したいが20.7%で最多

『家庭生活』と『個人の生活』を優先したいが20.7%で最も多く、次いで『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべてを優先したいが19.4%である。

『家庭生活』と『個人の生活』を優先したいは女性では24.9%と多いが、男性は13.7%となっている。男性は『仕事』と『家庭生活』を優先したいが23.4%で最も多くなっている。

図表一問 11-① 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度（全体、性別）



（年齢別集計結果より）

- ▶ 男性の60～69歳、70歳以上で『仕事』と『家庭生活』を優先したいが、30～39歳では『家庭生活』を優先したいが全体平均を10ポイント以上上回っている。
- ▶ 女性の40～49歳では『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべてを優先したいが全体平均を10ポイント以上上回っている。

東京都では『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべてを優先したいが24.7%、国では『仕事』と『家庭生活』を優先したいが30.5%で最も多くなっている。

図表一問 11-② 「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」の優先度【東京都と国との比較】

	府中市	東京都	国
「仕事」を優先したい	3.6	4.4	8.9
「家庭生活」を優先したい	17.9	15.7	25.5
「個人の生活」を優先したい	11.3	9.3	3.8
「仕事」と「家庭生活」を優先したい	19.3	21.9	30.5
「仕事」と「個人の生活」を優先したい	6.1	7.4	4.7
「家庭生活」と「個人の生活」を優先したい	20.7	12.2	9.7
「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてを優先したい	19.4	24.7	15.4
無回答	1.7	4.4	

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」
 国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

問 12

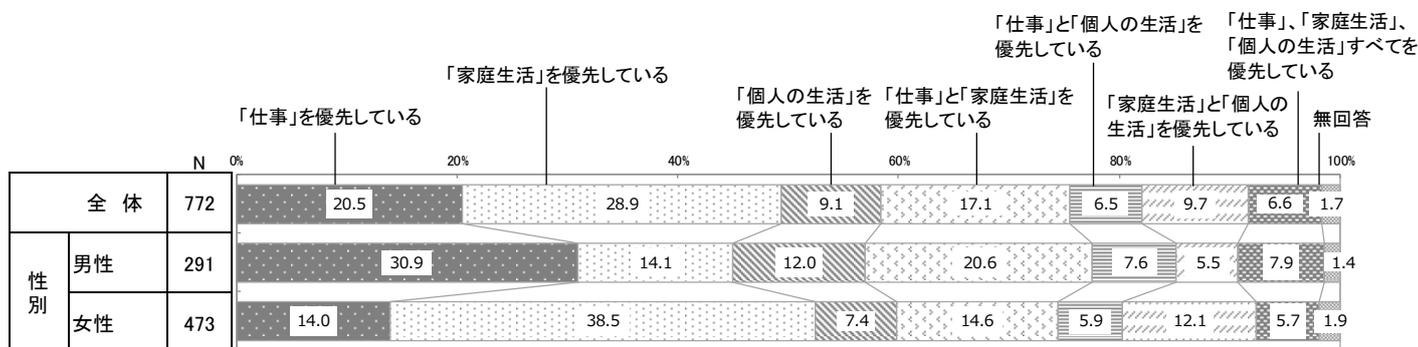
あなたの生活の中での優先度について、あなたの現実に最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

「希望」最多の「『家庭生活』と『個人の生活』を優先したい」は「現実」では9.7%で低い

「現実」では、「『家庭生活』を優先している」が28.9%、「『仕事』を優先している」が20.5%と多くなっている。「希望」で最多の「『家庭生活』と『個人の生活』を優先したい」は「現実」では9.7%と少なく、「希望」で2番目に多い「『仕事』、『家庭生活』、『個人の生活』すべてを優先したい」も、「現実」では6.6%と少なくなっている。

男女別では、男性は「『仕事』を優先している」が30.9%と最も多く、女性は「『家庭生活』を優先している」が38.5%と最も多くなっている。

図表一問 12-① 優先度について、現実に最も近いもの(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶ 男性の働き盛りで「『仕事』を優先している」が30~50%台で全体平均を大きく上回っている。
- ▶ 女性の30~39歳、40~49歳、60~69歳では「『家庭生活』を優先している」が40%を超えており、全体平均を大きく上回っている。

「現実」に関して、東京都や国の調査結果でも、「『家庭生活』を優先している」と「『仕事』を優先している」が多くなっている。

図表一問 12-② 優先度について、現実に最も近いもの(全体、性別)

	(%)		
	府中市	東京都	国
「仕事」を優先している	20.5	29.6	25.5
「家庭生活」を優先している	28.9	21.3	30.5
「個人の生活」を優先している	9.1	5.6	4.6
「仕事」と「家庭生活」を優先している	17.1	17.6	21.6
「仕事」と「個人の生活」を優先している	6.5	6.1	3.2
「家庭生活」と「個人の生活」を優先している	9.7	6.8	8.0
「仕事」、「家庭生活」、「個人の生活」すべてを優先している	6.6	6.7	5.3
無回答	1.7	6.4	

東京都：平成27年「男女共同参画社会に関する世論調査」

国：平成28年「男女共同参画社会に関する世論調査」

「長時間労働の削減」との回答が5割で最多

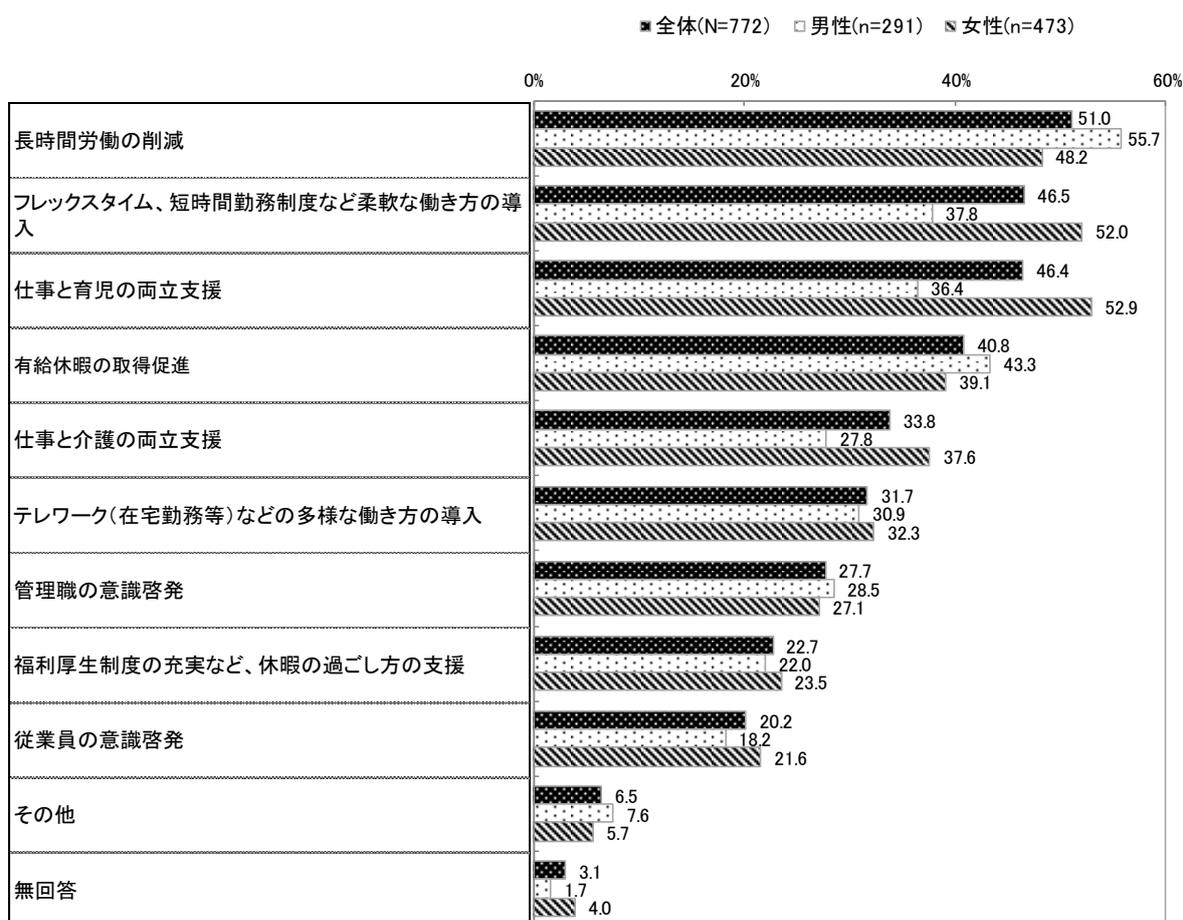
問 13

あなたは、ワーク・ライフ・バランス実現のために、どのような取り組みが有効だと思いますか。(〇はいくつでも)

「長時間労働の削減」が51.0%と最も多く、「フレックスタイム、短時間勤務制度など柔軟な働き方の導入」が46.5%、「仕事と育児の両立支援」が46.4%となっている。

女性では、「フレックスタイム、短時間勤務制度など柔軟な働き方の導入」は52.0%、「仕事と育児の両立支援」が52.9%と多くなっている。

図表—問 13 ワーク・ライフ・バランス実現のために、有効な取り組み（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

- ▶ 「長時間労働の削減」は男性の30～39歳(71.4%)と40～49歳(61.2%)で、「テレワーク(在宅勤務等)などの多様な働き方の導入」は男性の40～49歳(47.8%)で全体平均を大きく上回っている。
- ▶ 女性では20～29歳と30～39歳で多くの項目で回答率が高くなっている。特に、女性の20～29歳では「有給休暇の取得促進」(63.6%)や「福利厚生制度の充実など、休暇の過ごし方の支援」(39.4%)が多く、女性の30～39歳では「フレックスタイム、短時間勤務制度など柔軟な働き方の導入」(64.9%)、「仕事と育児の両立支援」(71.4%)、「テレワーク(在宅勤務等)などの多様な働き方の導入」(46.8%)、「管理職の意識啓発」(40.3%)が全体平均を大きく上回っている。
- ▶ 女性の50～59歳と60～69歳では「仕事と介護の両立支援」が47.3%、53.8%と全体平均より多くなっている。

問 14

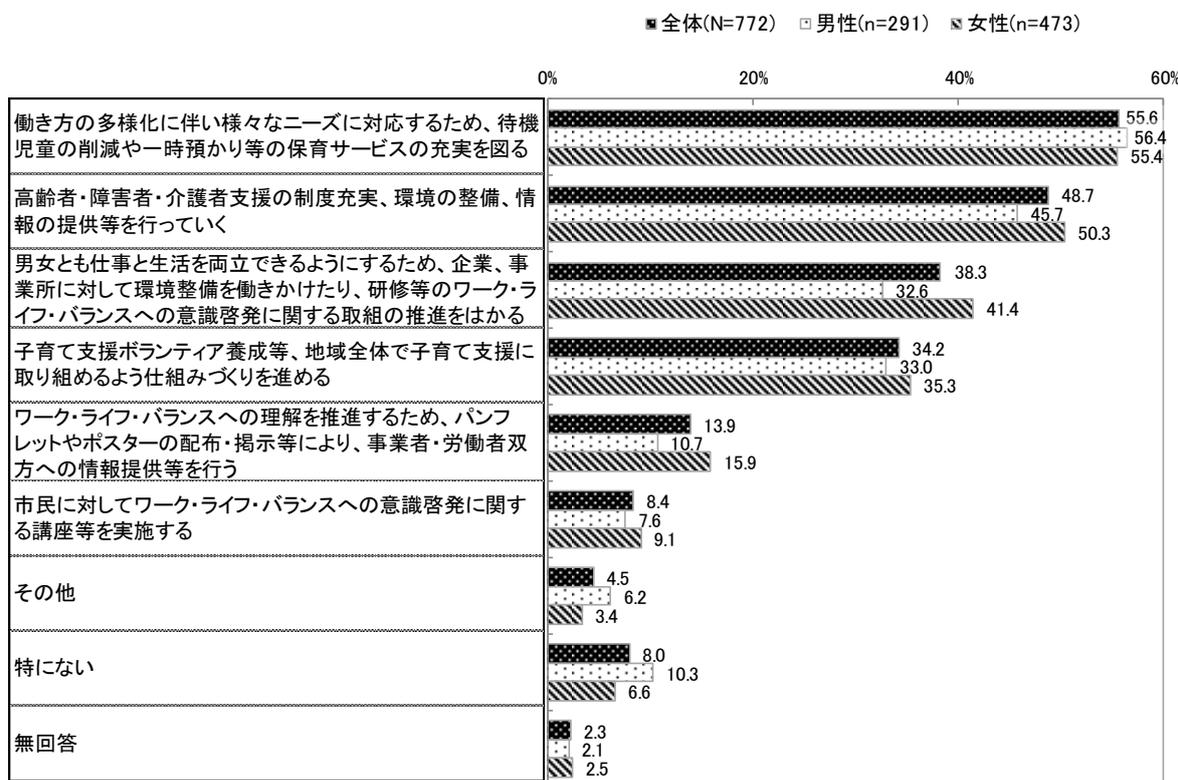
あなたは、ワーク・ライフ・バランスのとれた環境をつくるために、府中市にどのようなことを望みますか。(〇はいくつでも)

「働き方の多様化に伴い様々なニーズに対応するため、待機児童の削減や一時預かり等の保育サービスの充実を図る」が55.6%と最も多い

「働き方の多様化に伴い様々なニーズに対応するため、待機児童の削減や一時預かり等の保育サービスの充実を図る」が55.6%と最も多く、次いで「高齢者・障害者・介護者支援の制度充実、環境の整備、情報の提供等を行っていく」が48.7%、「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかけたり、研修等のワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する取組の推進をはかる」が38.3%で続いている。

男女別では、「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかけたり、研修等のワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する取組の推進をはかる」は女性が41.4%、男性が32.6%と男女差が見られる。

図表一問 14 ワーク・ライフ・バランスのとれた環境をつくるために、府中市に望むこと（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

- ▶ 「働き方の多様化に伴い様々なニーズに対応するため、待機児童の削減や一時預かり等の保育サービスの充実を図る」は、男性の30～39歳、女性の20～29歳と30～39歳で7割前後と多くなっている。
- ▶ 「高齢者・障害者・介護者支援の制度充実、環境の整備、情報の提供等を行っていく」は、男性の60～69歳と70歳以上、女性の50～59歳と60～69歳で6割を超えている。
- ▶ 「男女とも仕事と生活を両立できるようにするため、企業、事業所に対して環境整備を働きかけたり、研修等のワーク・ライフ・バランスへの意識啓発に関する取組の推進をはかる」は女性の30～39歳で約5割と多くなっている。

4. 人権が尊重される社会の形成について

問 15

パートナー間でけがを負わせるほどの暴力を振るったり、振るわれたりしたときの対応の仕方について以下の2つの意見があります。

A. 当事者や家族間で解決するように努力するべきだ。

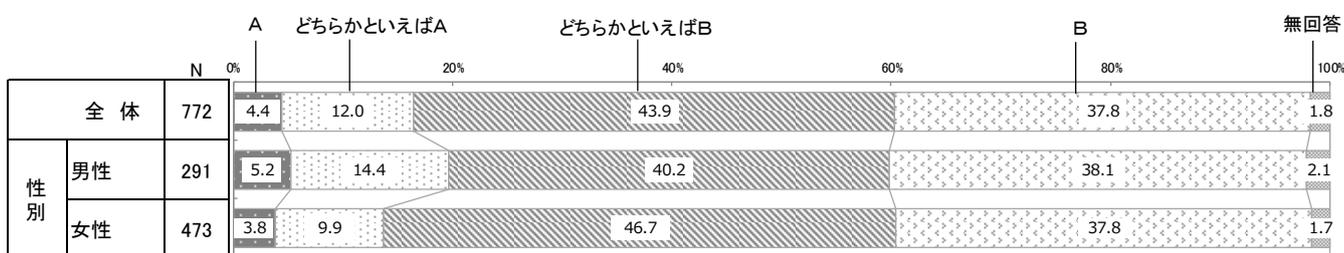
B. 警察や相談機関などにかかわってもらうべきだ。

あなたの考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

「B. 警察や相談機関などにかかわってもらうべきだ。」が「どちらかといえばB」を合わせて8割

「B」は37.8%で「どちらかといえばB」は43.9%、合わせると81.7%に上る。「A」は4.4%、「どちらかといえばA」は12.0%で、合わせて16.4%である。

図表一問 15—① DVについての考え(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶ 男性の20～29歳と30～39歳で「B」が5割を超えている。
- ▶ 女性では30～39歳で「B」が、20～29歳と60～69歳で「どちらかといえばB」が5割を超えている。

経年比較でみると、H24世論調査では「どちらかといえばB」と「B」を合わせると54.8%、H28世論調査では68.4%で、「B」が増加している。

図表一問 15—② DVについての考え【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N=772)	H28世論調査 (N=996)	H24世論調査 (N=846)
A	4.4	12.1	15.8
どちらかといえばA	12.0	18.1	24.8
B	43.9	47.2	27.5
どちらかといえばB	37.8	21.2	27.3
無回答	1.8	1.4	4.5

問 16

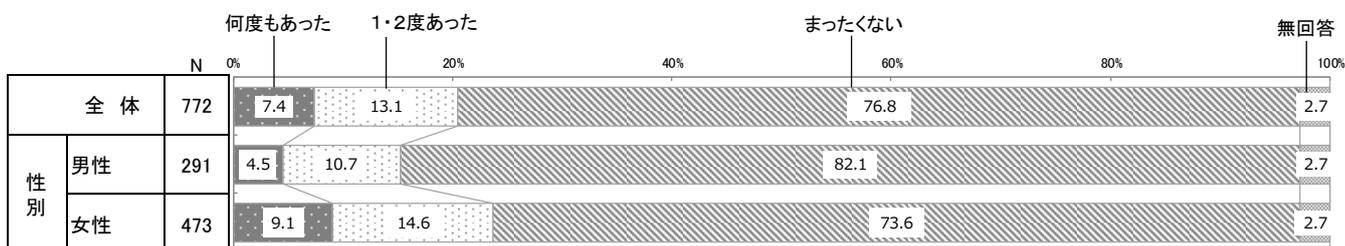
あなたやあなたの身近な人が、パートナーからの身体的暴力、精神的暴力、社会的暴力、経済的暴力、性的暴力を受けたり、気づいたりしたことがありますか。
(○は1つ)

本人及び身近な人の暴力体験者は全体の2割

「まったくない」が76.8%と多い。「1・2度あった」は13.1%、「何度もあった」は7.4%で合わせると本人及び身近な人の暴力体験者は20.5%である。

「1・2度あった」と「何度もあった」と合わせると、男性は15.2%、女性は23.7%となっている。

図表一問 16—① あなたやあなたの身近な人のDV体験回数（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

▶年齢別で顕著な傾向は見られない。

質問の文言が異なるため、参考データではあるが、経年比較でみるとH24世論調査では「1・2度あった」と「何度もあった」を合わせると14.3%、H28世論調査では10.7%で、今回の調査では本人及び身近な人の暴力体験者が増加している。

図表一問 16—② あなたやあなたの身近な人のDV体験回数【府中市世論調査との経年比較】

(%)

	H30市民調査 (N = 772)	H28世論調査 (N = 996)	H24世論調査 (N = 846)
何度もあった	7.4	4.0	5.1
1・2度あった	13.1	6.7	9.2
まったくない	76.8	87.2	81.7
無回答	2.7	2.0	4.0

H28世論調査では自身のDV体験のみを訊いている

(問 16 で「1. 何度もあった」または「2. 1・2度あった」と答えた方にうかがいます)

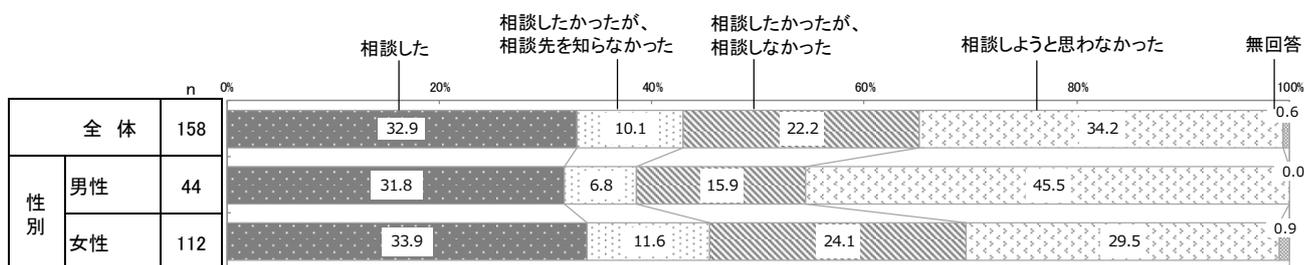
問 16-1 あなたは、暴力を受けたり、気づいたりしたときに、だれ（どこ）かに相談しましたか。(○は1つ)

本人及び身近な人の暴力体験者で「相談した」は3割

「相談した」は32.9%である。一方、「相談しようと思わなかった」が34.2%、「相談したかったが、相談しなかった」が22.2%となっている。

「相談した」は男性31.8%、女性33.9%とほぼ同じだが、「相談しようと思わなかった」は女性が29.5%、男性は45.5%と男女差が見られる。

図表一問 16-1—① DVの相談経験（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

▶「相談した」は男性の50～59歳と女性の30～39歳がともに42.9%で多くなっている。

一部質問や補問の回答の仕方が異なるため、参考データではあるが、経年比較でみると「相談した」はH24世論調査では38.0%、H28世論調査では39.3%で、今回の調査ではやや減少している。

図表一問 16-1—② DVの相談経験【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (n=158)	H28世論調査 (n=107)	H24世論調査 (n=121)
相談した	32.9	39.3	38.0
相談したかったが相談先を知らなかった	10.1		
相談したかったが相談しなかった	22.2	31.8	20.7
相談しようと思わなかった	34.2	29.0	36.4

※国は配偶者からの被害を相談した者の割合の目標値を男性30%、女性70%としている。
平成29年度の国の「男女間における暴力に関する調査」では「相談した」47.1%
(男性26.9%、女性57.6%)。

(問 16-1 で「1. 相談した」と答えた方にうかがいます)

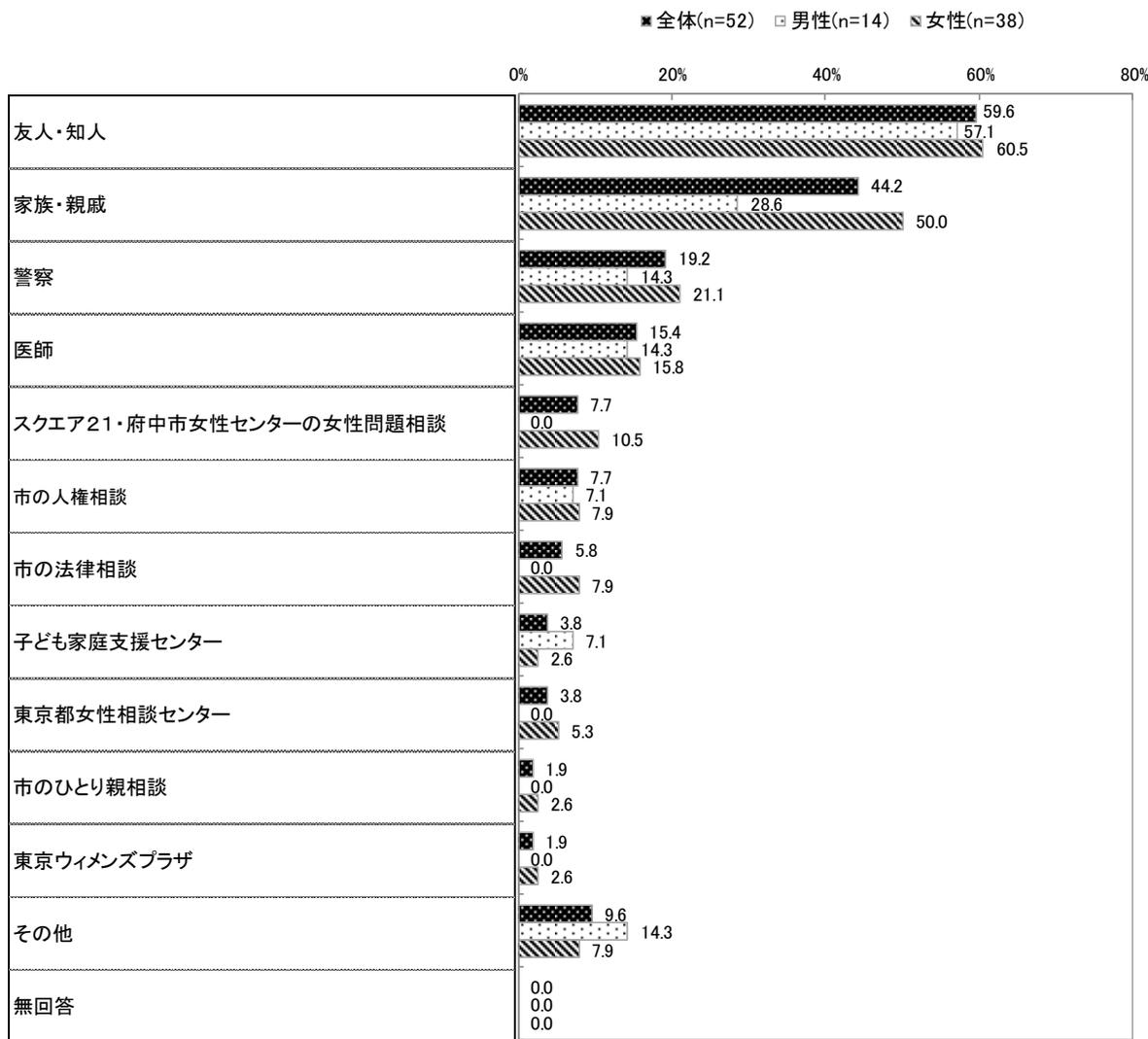
問 16-2 だれ（どこ）に相談しましたか。（〇はいくつでも）

相談先は「友人・知人」が最多で約6割

「友人・知人」が59.6%で最も多く、「家族・親戚」が44.2%と続いている。

「家族・親戚」は女性では50.0%、男性は28.6%と男女差が見られる。

図表一問 16-2-① DVの相談先（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

▶年齢別は母数が少ないため比較は省略。

選択肢が異なるものがあるため、参考データではあるが、経年比較でみると「友人・知人」「家族・親戚」はH24 世論調査でも50.0%、65.2%、H28 世論調査でも47.6%、28.6%と多い。

図表一問 16-2-② DVの相談先【府中市世論調査との経年比較（上位3位）】

	H30市民調査 (n=152)	H28世論調査 (n=42)	H24世論調査 (n=46)
友人・知人	59.6	47.6	50.0
家族・親戚	44.2	28.6	65.2
警察	19.2	4.8	6.5

(問 16-1 で「3. 相談したかったが、相談しなかった」「4. 相談しようと思わなかった」と答えた方にうかがいます)

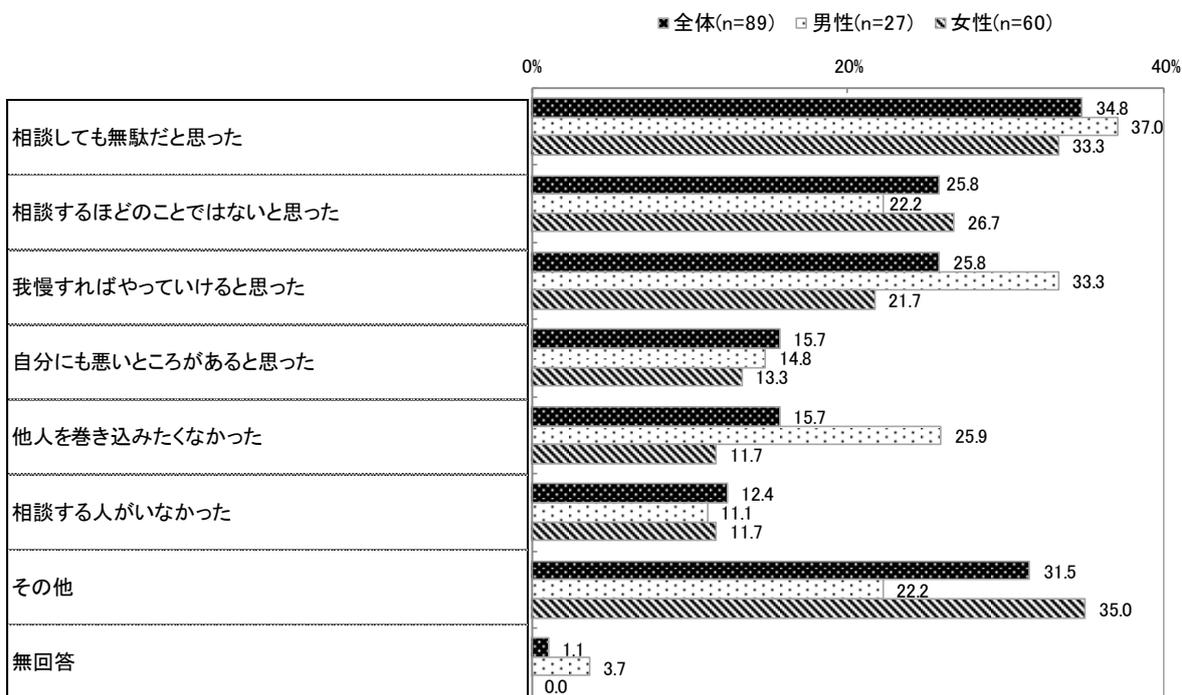
問 16-3 だれ（どこ）にも相談しなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

相談しなかった理由は「相談しても無駄だと思った」が 34.8%で最多

相談しなかった理由は「相談しても無駄だと思った」が 34.8%で最も多い。「相談するほどのことではないと思った」「我慢すればやっていけると思った」がともに 25.8%で続いている。

「我慢すればやっていけると思った」は男性 33.3%と多く、女性 21.7%となっている。男性では「他人を巻き込みたくなかった」も 25.9%と多くなっている。

図表一問 16-3-① DVを相談しなかった理由（全体、性別）



問 16-3 その他の主な記述

回答者がDVを受けたと思われるケース

- ・自己解決（4件）
- ・相談するということに思い至らなかった（2件）
- ・相談するのが恥ずかしかった（3件）
- ・子どもだったので（2件）
- ・被害が大きくなると思った（2件）
- ・相談することで心の傷が深くなると思った（2件）

身近な人がDVを受けたと思われるケース

- ・回答者が解決した（3件）
- ・相談すべきか判断できなかった（3件）
- ・本人が解決した（2件）
- ・解決後知った
- ・他の人が解決した
- ・本人が望まなかった
- ・見守った

(年齢別集計結果より)

▶年齢別は母数が少ないため比較は省略。

Ⅱ-4 人権が尊重される社会の形成について

一部質問や補問の回答の仕方が異なるため、参考データではあるが、経年比較でみると「相談しても無駄だと思った」はH24 世論調査では 24.6%、H28 世論調査では 7.7%となっており、今回は大幅に増加している。

図表一問 16-3-② DVを相談しなかった理由【府中市世論調査との経年比較】
(%)

	H30市民調査 (n=89)	H28世論調査 (n=65)	H24世論調査 (n=69)
相談しても無駄だと思った	34.8	7.7	24.6
相談するほどのことではないと思った	25.8	27.7	39.1
我慢すればやっていけると思った	25.8	16.9	27.5
自分にも悪いところがあると思った	15.7	16.9	24.6
他人を巻き込みたくなかった	15.7	12.3	23.2
相談する人がいなかった	12.4	6.2	11.6
パートナーが怖かった			5.8
他人に知られたいくなかった			27.5
どこに相談すればよいかわからなかった			15.9
その他	31.5	9.2	14.5
無回答	1.1	3.1	1.4

問 17

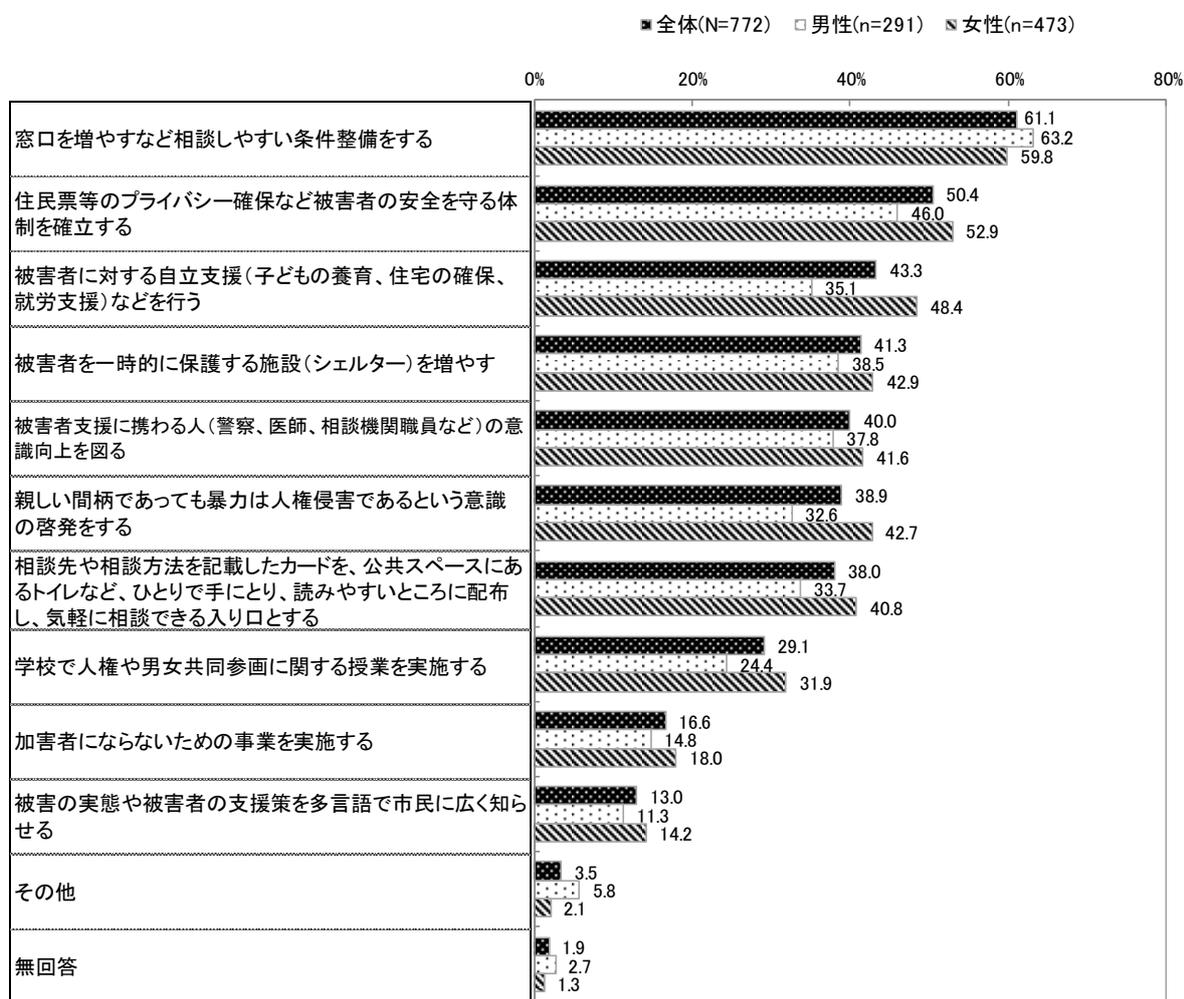
あなたはDV（配偶者等からの暴力）やデートDV（交際相手からの暴力）の対策や防止のために、今後、府中市の施策として特にどのような事業が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」が最多で約6割

「窓口を増やすなど相談しやすい条件整備をする」が61.1%と最も多く、「住民票等のプライバシー確保など被害者の安全を守る体制を確立する」が50.4%、「被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う」が43.3%で続いている。

「被害者に対する自立支援（子どもの養育、住宅の確保、就労支援）などを行う」は女性では48.4%と多く、男性は35.1%、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」も女性は42.7%と多く、男性は32.6%と10ポイントの差がある。

図表一問 17 DV対策・防止のために、今後、府中市の施策として必要な事業（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

- ▶ 「相談先や相談方法を記載したカードを、公共スペースにあるトイレなど、ひとりで手にとり、読みやすいところに配布し、気軽に相談できる入り口とする」は女性の30～39歳(55.8%)で特に多くなっている。
- ▶ 女性の50～59歳では「住民票等のプライバシー確保など被害者の安全を守る体制を確立する」が64.8%、「被害者に対する自立支援(子どもの養育、住宅の確保、就労支援)などを行う」が57.1%、「親しい間柄であっても暴力は人権侵害であるという意識の啓発をする」が50.5%など、いずれの項目も全体的に回答率が高い傾向が見られる。

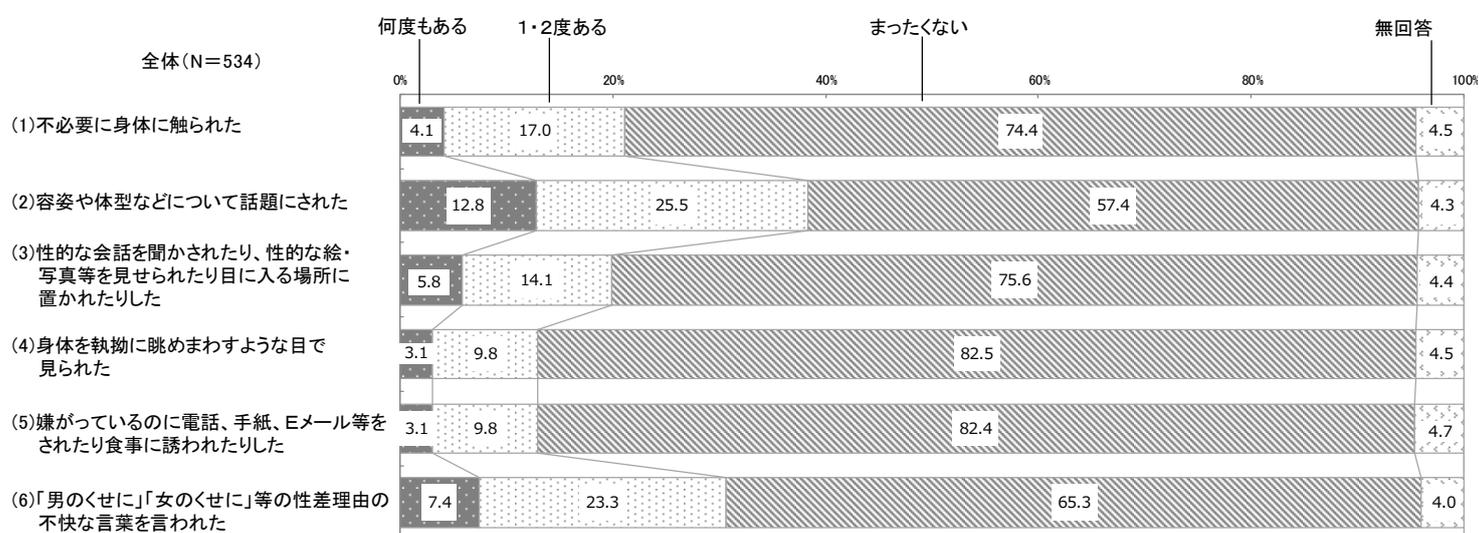
問 18

日常生活の中で、次の(1)～(6)にあげるような行為を受けたことがありますか。(それぞれについて〇は1つ)

「容姿や体型などについて話題にされた」は「何度もある」が12.8%、「1・2度ある」が25.5%と多い

「容姿や体型などについて話題にされた」が「何度もある」12.8%、「1・2度ある」25.5%、「『男のくせに』『女のくせに』等の性差理由の不快な言葉を言われた」が「1・2度ある」が23.3%と多い。どの行為も「まったくない」が全体では約6～8割となっている。

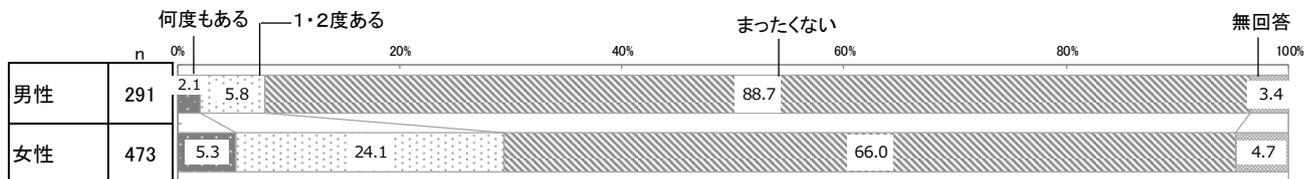
図表一問 18-① セクシュアルハラスメントを受けた経験(全体)



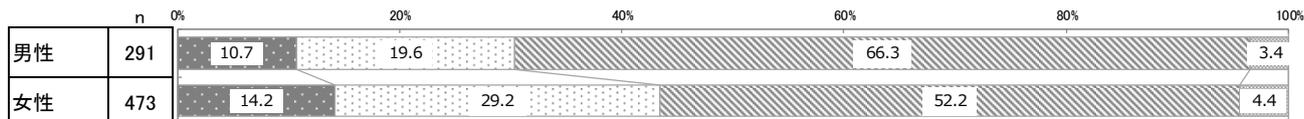
男性の回答に比べて女性は該当する行為を受けた割合が10~20ポイント高くなっている。

図表一問 18-② セクシュアルハラスメントを受けた経験（性別）

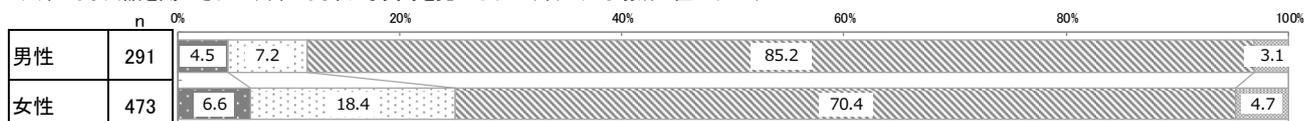
(1)不必要に身体に触られた



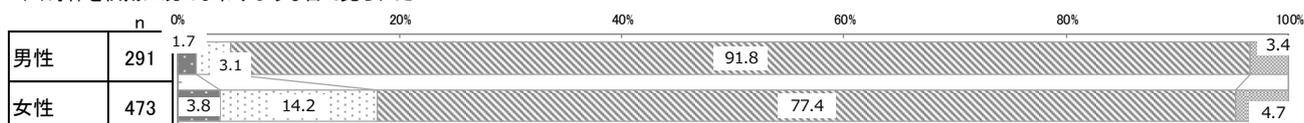
(2)容姿や体型などについて話題にされた



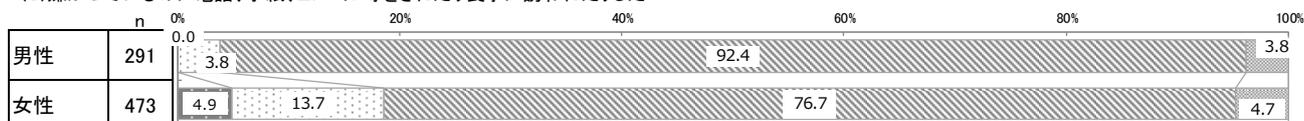
(3)性的な会話を聞かされたり、性的な絵・写真等を見せられたり目に入る場所に置かれたりした



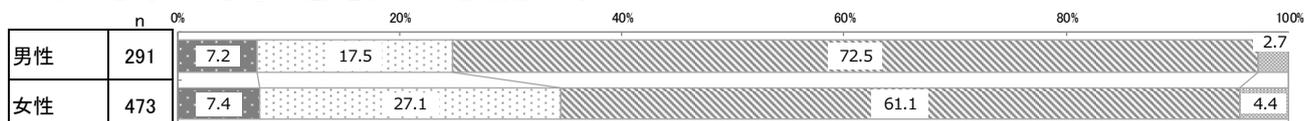
(4)身体を執拗に眺めまわすような目で見られた



(5)嫌がっているのに電話、手紙、Eメール等をされたり食事に誘われたりした



(6)「男のくせに」「女のくせに」等の性差理由の不快な言葉を言われた



(年齢別集計結果より)

- ▶女性の20~29歳から50歳~59歳では「1・2度ある」はすべての項目で全体平均を上回っている。
- ▶女性の20~29歳と30~39歳は「(1)不必要に身体に触れられた」では「1・2度ある」と「何度もある」を合わせて45.5%、35.1%、「(2)容姿や体型などについて話題にされた」では66.6%、55.9%と多くなっている。

問 19

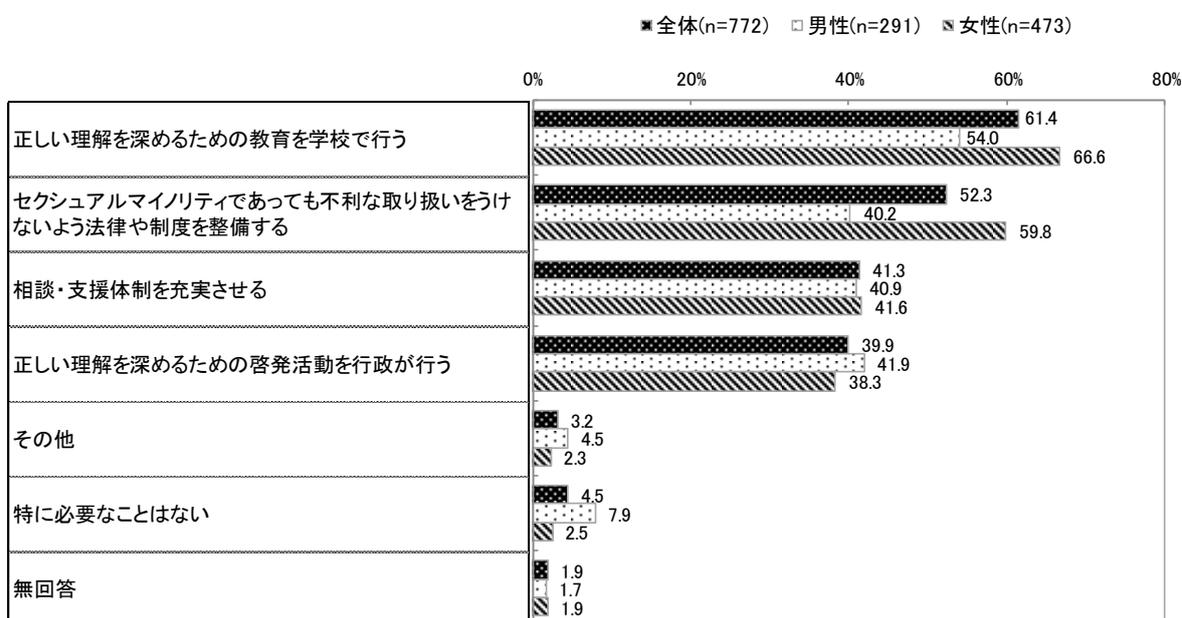
あなたは、セクシュアルマイノリティの人々の人権を守るために、特にどのような方策が必要だと思われますか。(〇はいくつでも)

「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が61.4%で最多

「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が61.4%と最も多く、「セクシュアルマイノリティであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」が52.3%、「相談・支援体制を充実させる」が41.3%で続いている。

「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」は男性54.0%、女性66.6%、「セクシュアルマイノリティであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」は男性40.2%、女性59.8%で男女差が大きい。

図表一問 19 セクシュアルマイノリティの人々の人権を守るために、必要な方策（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

▶「正しい理解を深めるための教育を学校で行う」が男性の30～39歳で73.8%、女性の30～39歳と50～59歳もそれぞれ79.2%、72.5%と多くなっている。女性の30～39歳と50～59歳は「セクシュアルマイノリティであっても不利な取り扱いを受けないよう法律や制度を整備する」もそれぞれ67.5%、67.0%と多くなっている。

5. 男女共同参画社会づくりに向けた市の施策について

問 20

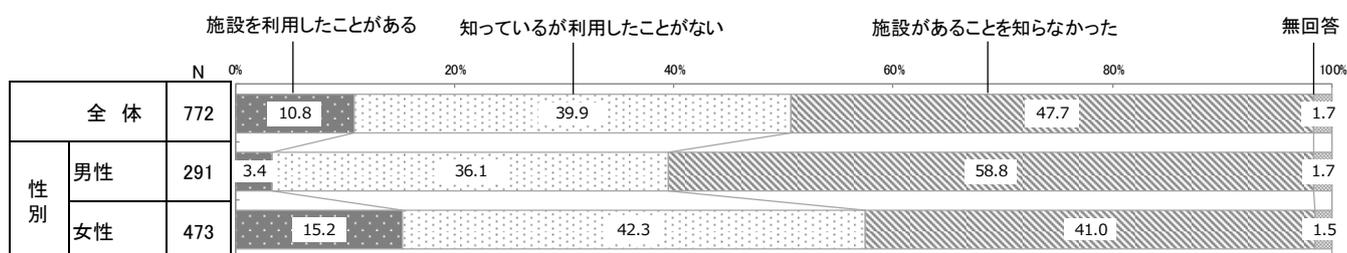
府中市には、男女共同参画社会の実現に向けて、各種講座や女性問題相談、情報提供などを行っている「スクエア21・府中市女性センター」があります。この施設を知っていますか。(○は1つ)

「施設を利用したことがある」は1割程度

「施設があることを知らなかった」が47.7%、「知っているが利用したことがない」が39.9%、「施設を利用したことがある」は10.8%である。

女性では「施設を利用したことがある」は15.2%、男性は3.4%と女性の方が利用率は高い。「施設があることを知らなかった」は女性が41.0%に対し、男性は58.8%と男性の方が認知率は低くなっている。

図表一問20—① 「スクエア21・府中市女性センター」の認知・利用経験(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶ 「施設を利用したことがある」は女性の40~49歳が18.0%と最も多く、女性の60~69歳が16.3%で続いている。
- ▶ 「施設があることを知らなかった」は男女ともに20~29歳でそれぞれ66.7%、69.7%と多く、男性は50~59歳(68.1%)と60~69歳(62.7%)でも多くなっている。

「施設を利用したことがある」はH25世論調査では6.8%、H26世論調査では10.4%、今回10.8%で前回とほぼ同様である。

図表一問20—② 「スクエア21・府中市女性センター」の認知・利用経験【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N=772)	H26世論調査 (N=844)	H25世論調査 (N=836)
施設を利用したことがある	10.8	10.4	6.8
知っているが利用したことがない	39.9	42.1	41.4
施設があることを知らなかった	47.7	45.7	50.4
無回答	1.7	1.8	1.4

(問 20 で「2. 知っているが利用したことがない」と答えた方にうかがいます)

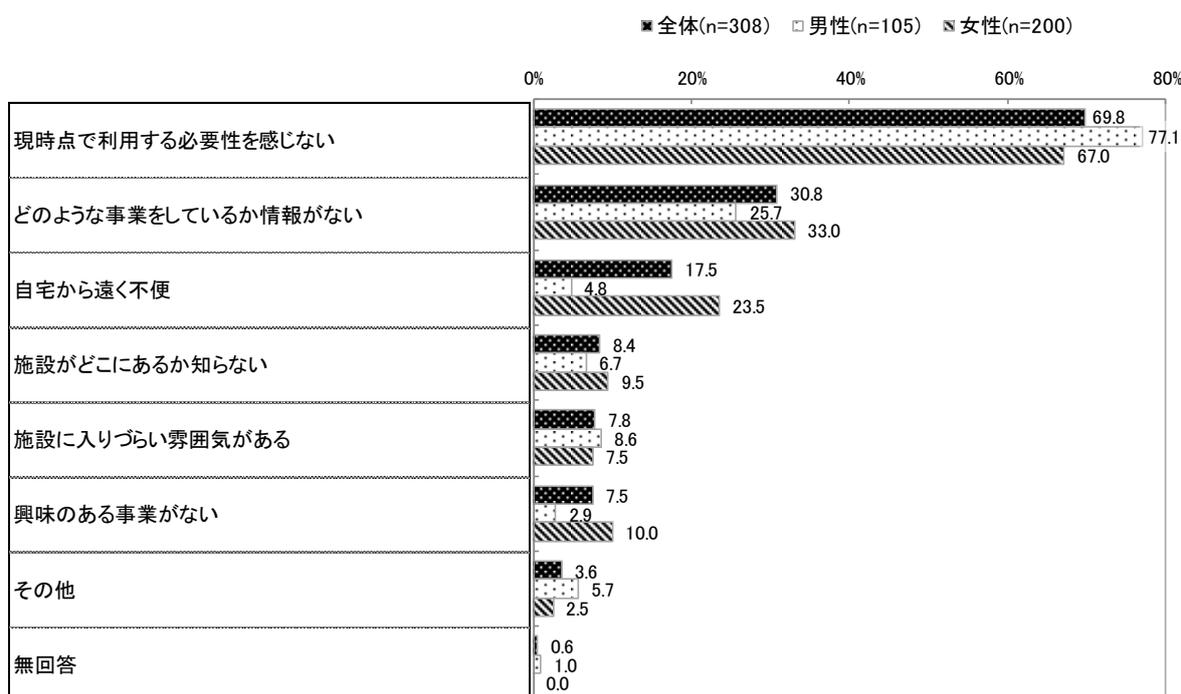
問 20-1 利用したことがない理由はなんですか。(○はいくつでも)

「現時点で利用する必要性を感じない」が最多

「現時点で利用する必要性を感じない」が 69.8%で最も多く、「どのような事業をしているか情報がない」が 30.8%、「自宅から遠く不便」が 17.5%と続く。

「現時点で利用する必要性を感じない」は男性が 77.1%、女性は 67.0%、「自宅から遠く不便」は男性が 4.8%、女性は 23.5%で男女差が見られる。

図表一問 20-1 「スクエア21・府中市女性センター」非利用理由（全体、性別）



(年齢別集計結果より)

- ▶ 男性の 40～49 歳で「現時点で利用する必要性を感じない」は 83.3%と特に多くなっている。
- ▶ 「どのような事業をしているか情報がない」は男性の 30～39 歳、女性の 20～29 歳と 50～59 歳で 4 割を超えている。
- ▶ 「施設がどこにあるか知らない」は男性の 20～29 歳 (33.3%) と女性の 30～39 歳 (20.7%) で全体平均を大きく上回っている。

問 21

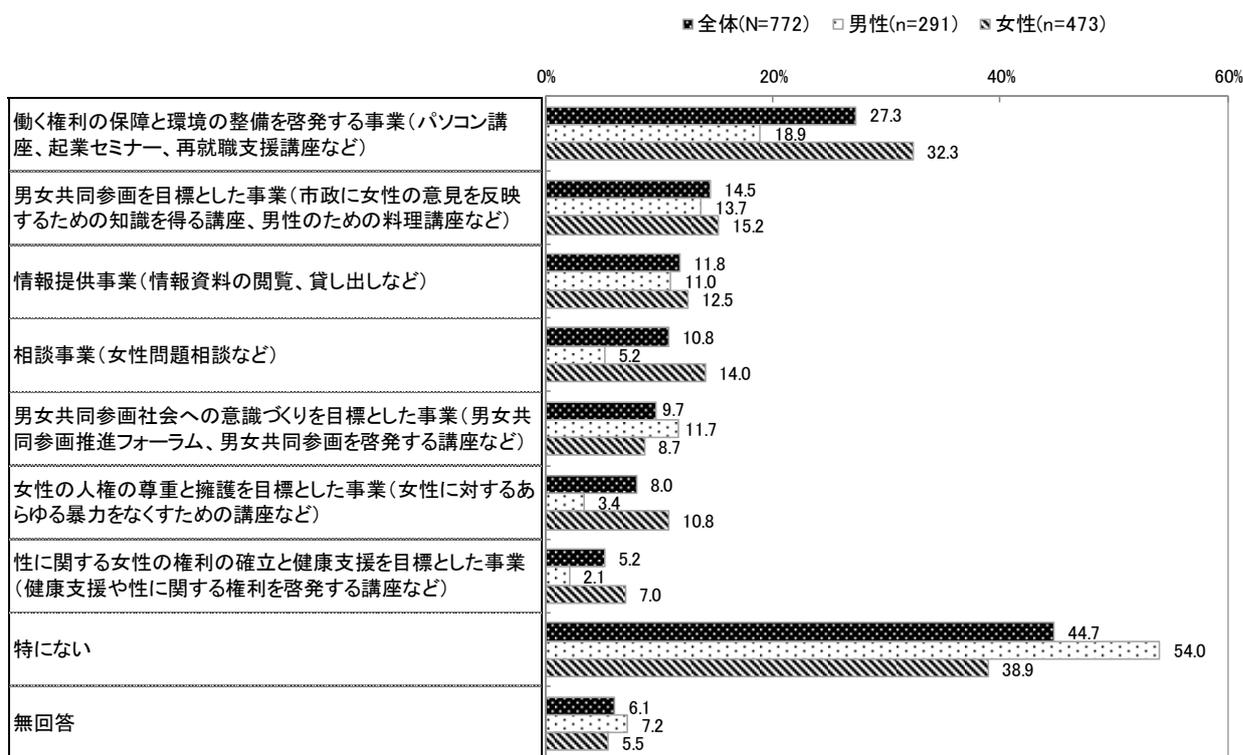
「スクエア21・府中市女性センター」で実施している講座・セミナー等で、参加したい・利用したいと思うものを選んでください。(○はいくつでも)

利用したい講座・セミナー等は「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業」が最多

「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業」が27.3%と最も多く、「男女共同参画を目標とした事業」が14.5%、「情報提供事業」が11.8%、「相談事業」が10.8%と続いている。「特にない」は44.7%である。

「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業」は男性が18.9%、女性は32.3%と女性が多くなっている。男性では「特にない」は54.0%と女性の38.9%を大きく上回っている。

図表一問21—① 「スクエア21・府中市女性センター」の講座・セミナー等、参加・利用意向(全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶女性の30～39歳で「働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業」が39.0%と多くなっている。
- ▶男性の20～29歳、30～39歳と70歳以上では「特にない」が6割前後と多くなっている。

H26 世論調査と比較すると全体的に減少傾向にある。「女性の人権の尊重と擁護を目標とした事業」が微増している。(H25 世論調査では該当質問無し)

図表一問 21—② 「スクエア21・府中市女性センター」の講座・セミナー等、参加・利用意向
【府中市世論調査との経年比較】

	H30市民調査 (N = 772)	H26世論調査 (N = 844)
		(%)
働く権利の保障と環境の整備を啓発する事業	27.3	32.9
男女共同参画を目標とした事業	14.5	22.6
情報提供事業	11.8	11.8
相談事業	10.8	18.2
男女共同参画社会への意識づくりを目標とした事業	9.7	12.2
女性の人権の尊重と擁護を目標とした事業	8.0	6.9
性に関する女性の権利の確立と健康支援を目標とした事業	5.2	5.3
特になし	44.7	30.9
無回答	6.1	3.9

問 22

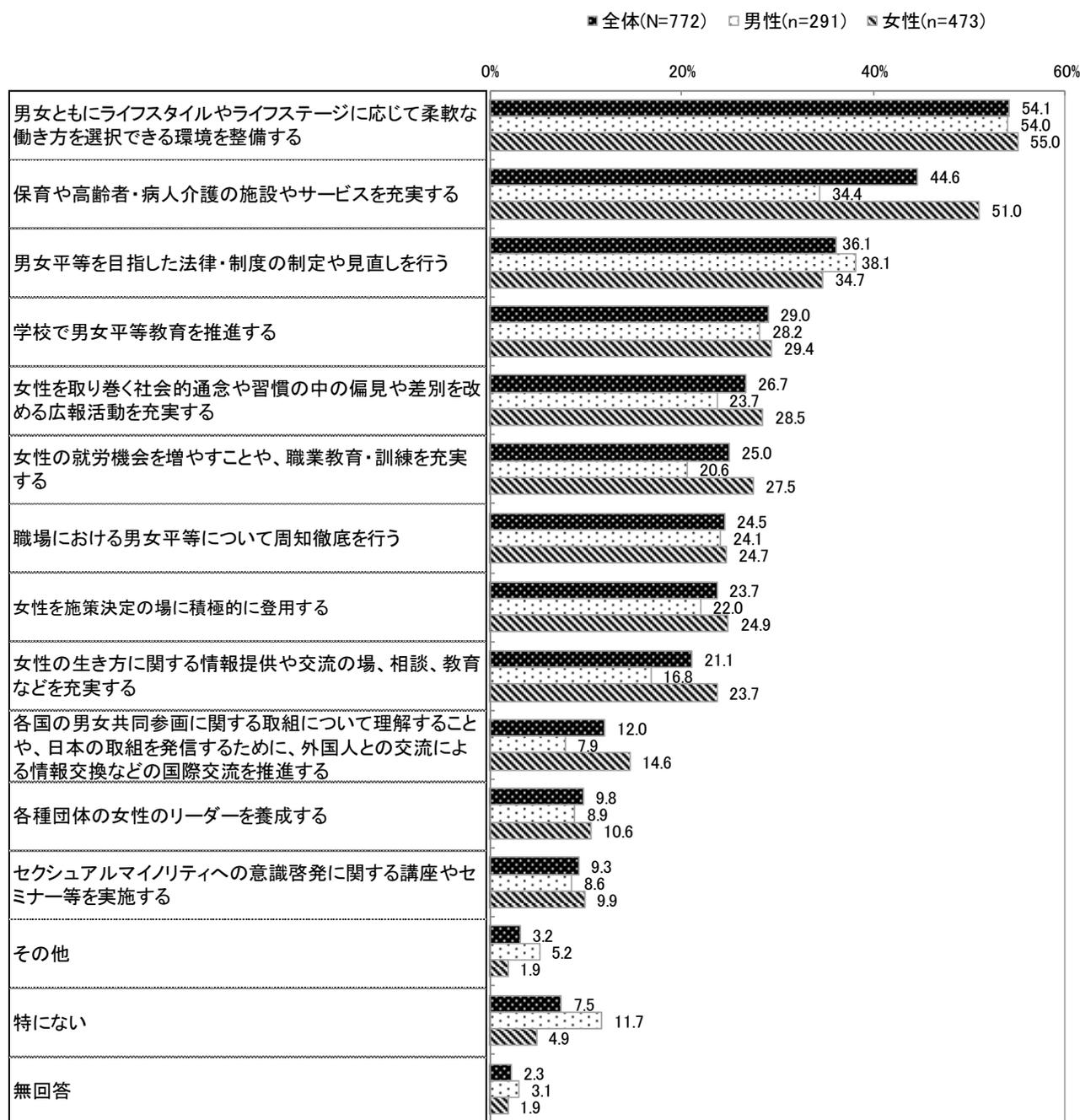
男女が共に認め合い、いきいきと豊かに暮らせる社会を実現させるために、特に力を入れてほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」への回答が過半数を占める

「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」が54.1%で最も多く、「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」が44.6%、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」が36.1%で続く。

「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」では、女性は51.0%と過半数を占めるが、男性は34.4%で、男女差が見られる。

図表—問 22—① 男女が共に認め合い、いきいきと豊かに暮らせる社会を実現させるために、特に力を入れてほしいこと (全体、性別)



(年齢別集計結果より)

- ▶「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」が女性の50～59歳(61.5%)と60～69歳(61.3%)で多くなっている。
- ▶「女性を施策決定の場に積極的に登用する」は男性の60～69歳(35.6%)と女性の60～69歳(36.3%)で全体平均を大きく上回っている。

「男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する」はH26調査でも1位(60.2%)である(H25調査では選択肢に無かった)。「保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する」はH26調査でも2位(53.9%)、H25調査では1位(54.3%)で、今回調査の1位、2位は過去調査でも回答が多かった。

図表一問 22-② 男女が共に認め合い、いきいきと豊かに暮らせる社会を実現させるために、特に力を入れてほしいこと【府中市世論調査との経年比較(上位5位)】

	H30市民調査 (N=772)		H26世論調査 (N=844)		H25世論調査 (N=836)	
	順位	%	順位	%	順位	%
男女ともにライフスタイルやライフステージに応じて柔軟な働き方を選択できる環境を整備する	1	54.1	1	60.2	/	
保育や高齢者・病人介護の施設やサービスを充実する	2	44.6	2	53.9	1	54.3
男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	3	36.1	6	16.4	3	23.0
学校で男女平等教育を推進する	4	29.0	9	12.3	8	13.0
女性を取り巻く社会的通念や慣習の中の偏見や差別を改める広報活動を充実する	5	26.7	8	14.7	7	17.9

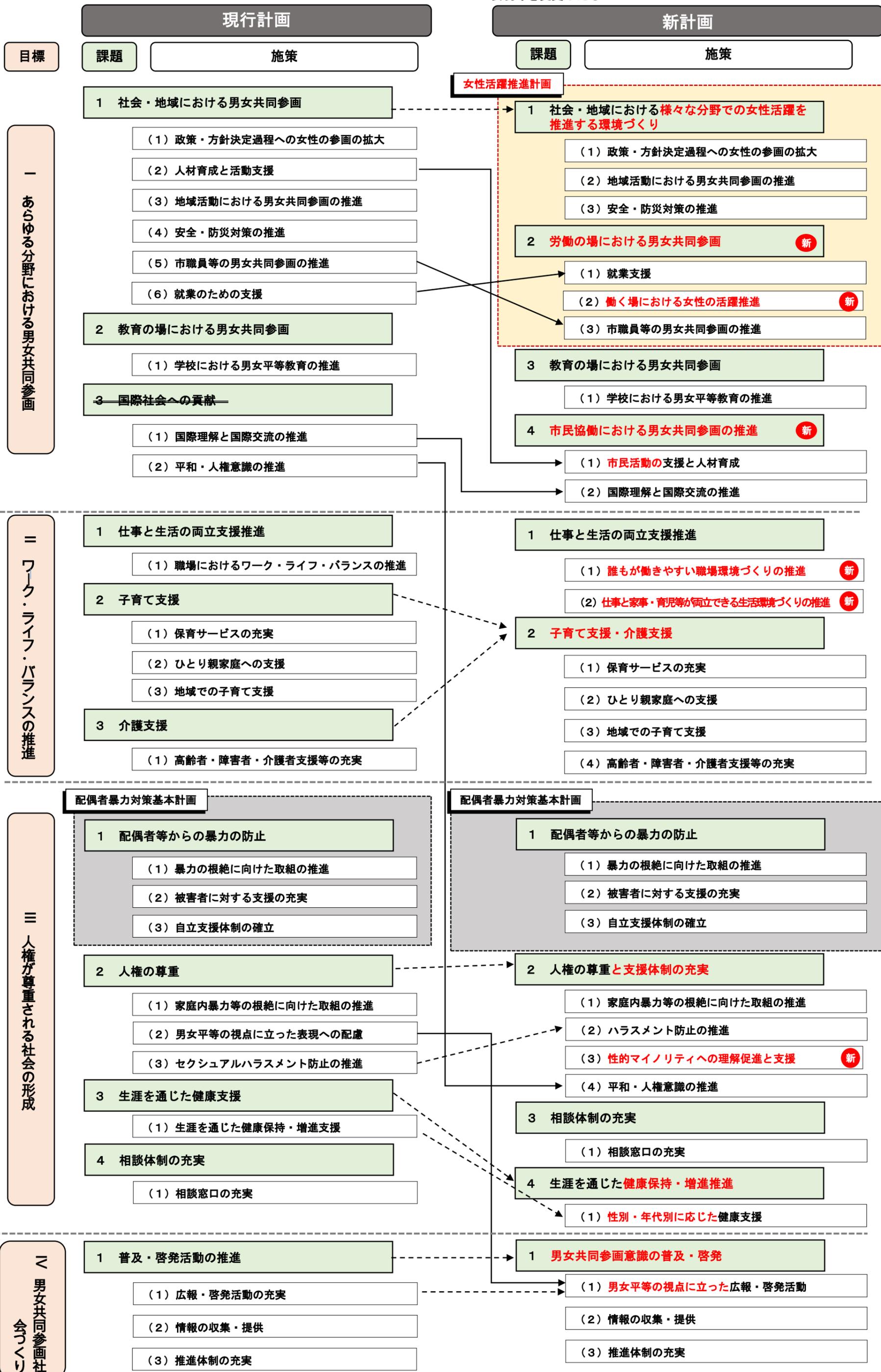
問 23

あなたが「スクエア21・府中市女性センター」で力を入れてほしい活動、実施してほしい講座、セミナーやイベントなどがありましたら、ご自由にお書きください。

自由意見としては、講座・セミナー等の開催の希望、就労支援の要望、広報活動について等が多く寄せられた。

主な意見
●DV・ハラスメント・男女平等など、人権一般についての講座・セミナー等を開催してほしい（11件）
●市内企業への再就職支援や、特に必要とされている職に関する公開セミナーの開催など就業支援をしてほしい（8件）
●パネル展示など、入りやすいイベントの実施や、SNSやLINEなどを活用した、施設利用・認知向上にむけたPR活動をもっとした方がよい（8件）
●現在または今後子育てする世代に対して、家庭での役割分担や子どもとのかかわり方についてのセミナー・講座・イベント等を開催してほしい（7件）
●時短でできる料理やヨガ教室など、健康・趣味などの講座やセミナーを開催してほしい（5件）
●産休・育休の制度や法律、医療などの講座やセミナーを開催してほしい（5件）
●老後の生きがいについてなどの勉強会やセミナーを開催してほしい（3件）
●介護が必要になった時の意識づけや公のサポートなどの情報提供をしてほしい（2件）

→ 目標・課題を変更した施策
 - - - 表現等を変更したもの



男女が共に参画するまち府中プラン